

©C o p y r i g h t 2 0 1 1 B R O T H E R I N D U S T R I E S , L T D .

P-touch Template manual

機種名 PT-9800PCN/PT-9700PC

<作成> ブラザー工業株式会社

対応モデル: PT-9800PCN/9700PC

ご注意

本資料は、お客様が直接対応モデルを制御される場合に必要な情報を提供するものです。
お客様が以下の内容にご同意いただいた場合のみ、本資料のご利用が可能です。もしご同意いただけない場合は、お客様は本資料をご利用いただけません。

ご利用条件

お客様は、お客様ご自身が対応モデルをご利用いただくため（以下「本目的」といいます）に必要な範囲においてのみ、本資料を使用し、複製することができるものとします。なお、お客様は次のことを行ってはならないものとします。

- (1) 本目的以外の目的で本資料を複製すること
- (2) 本資料を改変し、翻案・翻訳し、または第三者に再頒布すること
- (3) 本資料を第三者に貸与・提供すること
- (4) 本資料に含まれるブラザーの権利に関する表示を削除・改変すること

無保証

- (a) 対応モデルおよび本資料のバージョンアップや修正等はブラザーが任意で行うものとし、お客様からの本資料の内容に関するお問い合わせまたはご要望に対しては一切応じかねます。
- (b) ブラザーは本資料に関し、明示または黙示であるかを問わず、瑕疵がないこと、特定の目的に適合することを含め、その他いかなる保証も行いません。
- (c) ブラザーは本資料および本資料に基づきお客様が作成したプログラムに起因して発生した直接的または間接的損害について、お客様に対し、いかなる責任も負わないものとします。

以上

【目次】

はじめに.....	4
P-touch Templateとは？	4
P-touch Templateの使い方.....	5
設定ツール説明書	6
P-touch Template 制限事項.....	13
注意事項.....	25

はじめに

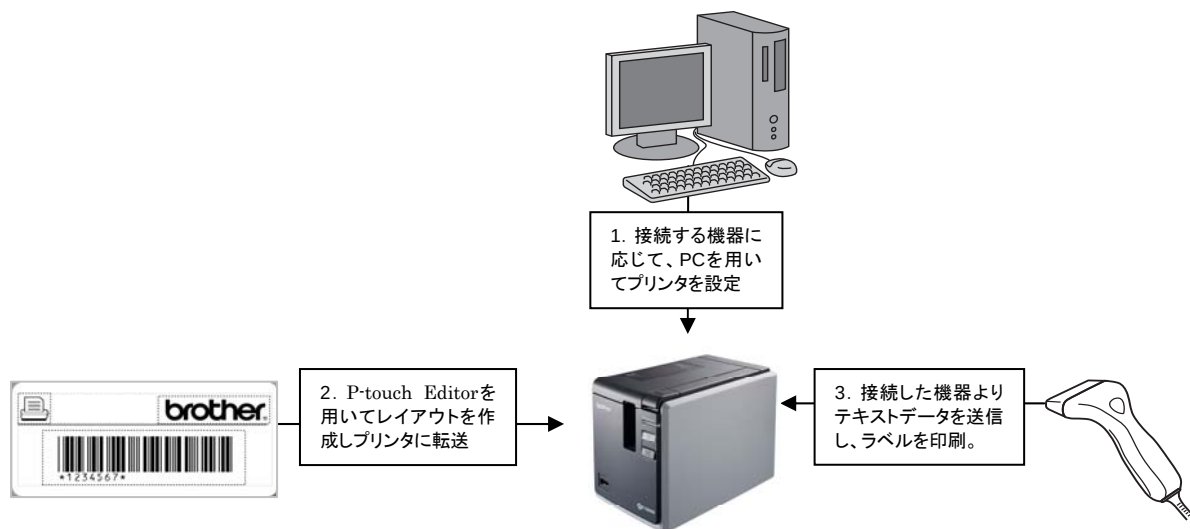
本書は PT-9800PCN 及び PT-9700PC へ転送したレイアウトにデータを流し、PC 以外の機器を直接制御して印刷する方法が記されています。

本書は、お客様の開発環境における動作システムやRS-232Cについての知識がある方への説明書となっております。万一、本書を元にプログラムを開発したにもかかわらず、PT-9800PCN及びPT-9700PC及び、P-touch Templateを用いたシステムなどのデータが消えたり変化した場合、生じた損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。加えて、本書はいかなる請求の証拠にもなり得ませんので、あらかじめご了承ください。

また、本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載することは禁じられています。

P-touch Templateとは？

P-touch Template とは、接続した機器より、送られてきたテキストデータを PT-9800PCN 及び PT-9700PC に保存しているレイアウトのテキストオブジェクト、バーコードオブジェクトに反映させることが出来るツールです。



P-touch Template は PC 無しでの印刷を可能にし、また手間無くラベルのデータのみを変更できるツールです。

接続が可能な機器は、下記の様なものです。

- ーバーコードリーダー
- ー計量機器
- ー医療機器 など

※ 注意：

- 接続が可能な機器には、データを転送するためのシリアルケーブル（RS-232C）が必要です。
- 機器によっては、データを転送できないものもございます。

P-touch Templateの使い方

1. 本体設定

PT-9800PCN 及び PT-9700PC の接続先の環境や接続機器に合わせて、「P-touch テンプレート設定」を作動させて、PT-9800PCN 及び PT-9700PC の本体をセットアップします。

(本書の[設定ツール説明書](#)をご参照ください。)



2. レイアウトの作成

P-touch Editor で本体に転送するレイアウトを作成します。

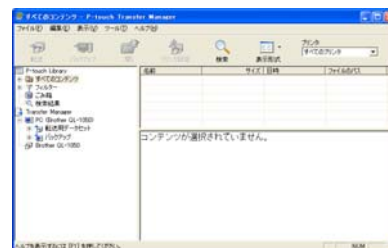
(本書の[P-touch Template 制限事項](#)をご参照ください。)



3. レイアウトの転送

P-touch Transfer Manager を使用して、レイアウトを本体に転送します。

(PT-9800PCN及びPT-9700PCの[ユーザーズガイド](#)をご参照ください。)

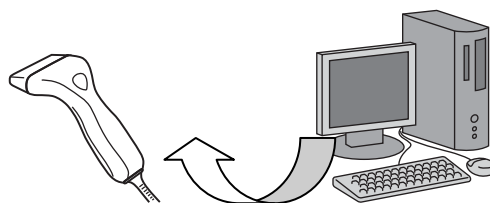


4. P-touch Template コマンドによるプログラム

本体を制御するために特別なコマンドが必要であれば、P-touch Template コマンドリファレンスに従って接続する機器のプログラムを変更してください。

(PT-9800PCN 及び PT-9700PC の

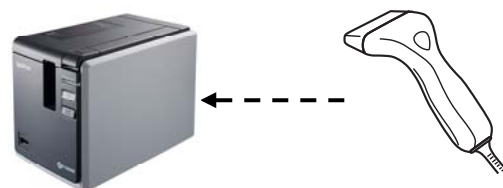
P-touch Template Command をご参照ください。)



5. 機器との接続から印刷

シリアルケーブルを使用して、接続する機器と本体を繋いでください。

接続する機器からテキストデータを本体へ送り、ラベルを印刷します。



※使い方の詳細に関しては、CD に格納されているサンプルをご参照ください。

設定ツール説明書

①コマンドモード選択

②テンプレート番号選択

③区切り記号設定

④印刷開始トリガ設定

⑤印刷開始コマンド文字列設定

⑥印刷開始データ数設定

⑦文字コードセット選択

⑧国際文字設定

⑨プレフィックス文字設定

⑩読み捨て文字列設定

⑪改行コード文字列設定

⑫FNC1 置換設定

⑬印刷枚数設定

⑭オートカット設定

⑮ハーフカット設定

⑯特殊テープ設定

⑰カット枚数設定

⑱つなげて印刷設定

⑲ミラー印刷設定

⑳通信設定

①～⑱の設定値をデフォルトに戻す。

本体に①～⑱の設定値をセットする。

ツールを閉じる。

P-touch テンプレート設定 - Brother PT-9800PCN

転送したテンプレートの設定をするには P-touch Template モードを選択し必要に応じてデータを入力して下さい。
 テキストボックスに制御コードを入力するには、ASCIIコード[00-FF]の前に¥マークをつけてください。
 (例) TAB: ¥09, CR: ¥0D, ¥: ¥¥ 各1バイト

コマンドモード(C): P-touch Template

テンプレート番号初期値(I): 1

区切り記号(L): ¥09

印刷開始トリガ

- ☒ 印刷開始コマンド文字列(O): ^FF
- ☐ すべてのオブジェクトのデータ取得後(I)
- ☐ 指定データサイズ受け取り後(Y): 10 バイト

文字コードセット(H): Windows 1252

国際文字(N): Japan

プレフィックス文字(P): ^

読み捨て文字列(R):

改行コード(E): ^CR

☐ FNC1置換(E)

印刷オプション

印刷枚数(B): 1

☒ オートカット(A): 1 枚ごとにカット

☒ ハーフカット(U)

☐ 特殊テープ(カットなし)(S)

☐ つなげて印刷(C)

☐ ミラー印刷(M)

通信設定(M)...

既定値に戻す(D)

設定(S)

キャンセル

①コマンドモード選択

- ・ P-touch Template モード
P-touch テンプレートを使用する場合は、P-touch Template モードを選択する。
- ・ ESC/P モード
- ・ Raster モード

②テンプレート番号選択

電源ON時に、デフォルトで選択されるテンプレート番号を設定する。
ただし、本体に転送されていないテンプレート番号を設定することはできない。

③区切り記号設定

区切り記号とは、データの流し込み対象を、次のオブジェクトに移行する時に使う記号である。1～20文字の文字列で設定する。

④印刷開始トリガ設定

印刷開始トリガを、以下の3つの中から1つ選択する。

- ・ 印刷開始コマンド文字列受信時
(⑤で設定した印刷開始コマンド文字列を受信した時、印刷を開始する。)
- ・ 全てのオブジェクトが埋まった時
(最終オブジェクトで、区切り記号を受信した時、印刷を開始する。)
- ・ 設定されている文字数受信時
(⑥で設定した文字数を受信した時、印刷を開始する。ただし、区切り記号は、文字数にカウントされない。)

⑤印刷開始コマンド文字列設定

1～20文字の文字列で設定する。

⑥印刷開始データ数設定

印刷開始データ数は、1～999 の値で設定が可能である。

⑦文字コードセット選択

- ・ 選択不可。＜日本モデル対応＞
- ・ 次の文字コードを選択可。＜海外モデル対応＞＜中国モデル対応＞

Windows 1252

Windows 1250

Brother standard

ただし、中国語対応ファームの場合は選択しても無効。

⑧国際文字設定

各国別の文字セットを、以下から選択する。

- ・ U S A
- ・ フランス
- ・ ドイツ
- ・ イギリス
- ・ デンマーク
- ・ スウェーデン
- ・ イタリア
- ・ スペイン
- ・ 日本
- ・ ノルウェー
- ・ デンマーク II
- ・ スペイン II
- ・ ラテンアメリカ
- ・ 韓国
- ・ リーガル

上記選択の国により、以下の 1 2 コードが切り替わる。

2 3 h 2 4 h 4 0 h 5 B h 5 C h 5 D h 5 E h 6 0 h 7 B h 7 C h
7 D h 7 E h

切り替わる文字に関しては、P-touch Template Command 国際文字セット表参照のこと。

⑨プレフィックス文字設定

プレフィックス文字コードを変更する。1 文字の文字コードで設定する。

プレフィックス文字とは、**P-touch Template** モードで使えるコマンドを識別するための先頭文字コードである。

⑩読み捨て文字列設定

ここで指定された文字列は、データ受信時に読み捨てられる。1～20文字の文字列で設定する。

⑪改行コード文字列設定

改行コードとは、データ流し込み時、以降のデータをテキストオブジェクト内の次の行に移動したいときに使うコードである。改行コードを以下の4つの選択肢から選択するか、1～20文字の文字列で設定する。

1. ^CR
2. ¥OD¥OA
3. ¥OA
4. ¥OD

⑫FNC1置換設定

バーコード規格GS1-128(UCC/EAN-128)などに含まれるGSコードを、FNC1コードに置き換える機能を設定する。

チェックボックスにチェックを入れると、受信したGSコードをFNC1コードの置き換える。チェックをはずすと、受信したGSコードはそのまま出力される。

⑬印刷枚数設定

印刷枚数を設定する。1～99枚まで設定可能である。

⑭オートカット設定

オートカットON設定の場合、⑰で設定された枚数毎にカット動作を行う。

⑮ハーフカット設定

ハーフカット設定を行う。チェックボックスにチェックを入れると、ハーフカットされる。チェックをはずすと、ハーフカットされない。

⑯特殊テープ設定

特殊テープ(カット無し)設定を行う。チェックボックスにチェックを入れると特殊テープ設定が有効になり、オートカット設定とつなげて印刷設定が無効(OFFと同等)になる。チェックをはずすと特殊テープ設定が無効になり、オートカット設定とつなげて印刷設定は設定通りの動作となる。

⑰カット枚数設定

1 ～ 9 9 枚に設定可能である。

⑱つなげて印刷設定

つなげて印刷設定を行う。チェックボックスにチェックを入れるとつなげて印刷設定が有効になり、最終ページの印刷後、後送りをせず、オートカットもしなくなる。チェックをはずすとつなげて印刷設定が無効になり、最終ページの印刷後、後送りしてオートカットする。

⑲ミラー印刷設定

ミラー印刷設定を行う。チェックボックスにチェックを入れるとミラー印刷設定が有効になる。チェックをはずすとミラー印刷設定が無効になる。

⑳通信設定

シリアル通信に関する以下の4つの設定ができる。

- ・ ボーレート
115200bps 57600bps 38400bps 31250bps
28800bps 19200bps 14400bps 9600bps
4800bps 2400bps 1200bps 600bps
- ・ ビット長(bit)
8bit 7bit
- ・ パリティ
None Odd Even
- ・ ビジー制御
DTR XON/XOFF



通信設定画面を閉じる。

4つの設定値を本体にセットする。

4つの設定値をデフォルトに戻す。

その他

- ini ファイル

[設定]ボタン（メイン画面または通信設定画面）をクリックした後、終了時に値を保存する。

（PT-9800PCN の場合）

C:\¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother
¥Printer Settings¥Pts202E.ini

（PT-9700PC の場合）

C:\¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother
¥Printer Settings¥Pts203C.ini

- テキストボックス③⑤⑨⑩への文字入力

テキストで入れられる文字はテキストで入力し、制御コードなどは、¥マークを前につけて ASCII コード[00 - FF]で入力ができる。

例 ; PRINT ; [PRINT]

TAB 制御コード ; [¥09]

復帰制御コード ; [¥0D]

¥ ; [¥¥]

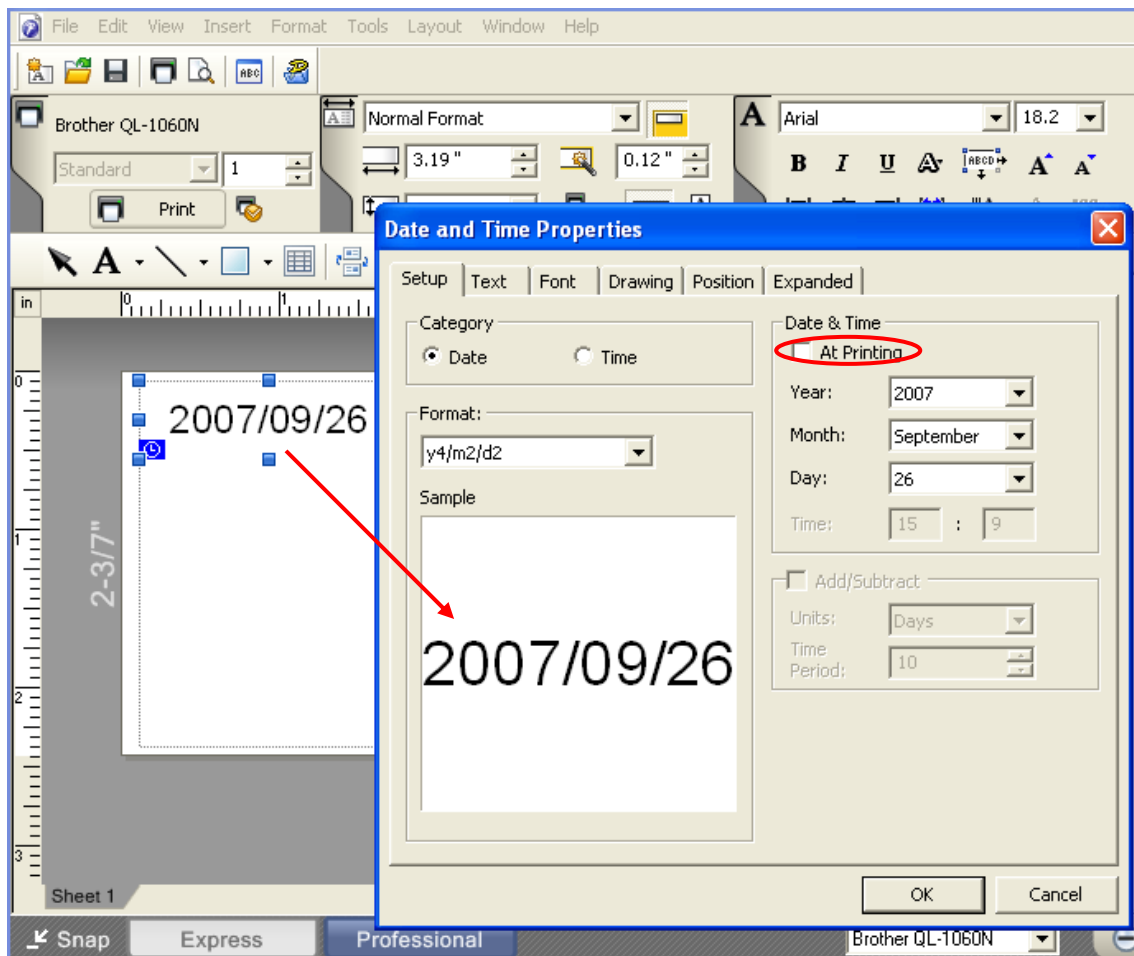
(¥ : 同じ文字コードでも、OS が US の場合、バックスラッシュ、JP の場合、円マークが表示される)

P-touch Template 制限事項

■テキストオブジェクト関係

- **P-touch Editor** で設定したフォントは、本体転送時、フォント形状に応じてヘルシンキまたはレターゴシックまたはブリュッセルに変換される。
(固定ピッチ：レターゴシック、セリフあり：ブリュッセル、セリフなし：ヘルシンキというルールで変換される。シンボルフォントに関しては、テキスト入力モードを有効にしているときは、テキストオブジェクトに変換され、フォントは、上記3つに振り分けられる。テキスト入力モードを解除しているときは、イメージオブジェクトに変換され、選択したフォントは変換されない。) <海外モデル対応>
- **P-touch Editor** で設定したフォントは、本体転送時、1 バイトコードならばヘルシンキに、2 バイトコードならゴシックに変換される。 <日本モデル対応>
- **P-touch Editor** で設定したフォントは、本体転送時、1 バイトコードならばヘルシンキに、2 バイトコードの漢字は黒体に変換される。 <中国モデル対応>
- **P-touch Editor** で設定した文字サイズは、本体転送時、本体内蔵の近いサイズに変換される。
- **P-touch Editor** で設定した文字サイズは、オブジェクト内で全て同じサイズになる。
- **P-touch Editor** で設定したタイムスタンプは、「印刷時の日付時刻」設定有の場合、空白印刷され、「印刷時の日付時刻」設定無の場合、**P-touch Editor** で作成時の日時に印刷される。
- テキストオブジェクト内の文字は、転送時の P C の言語により、西欧、東欧文字セットが使用される。 <海外モデル対応>

< 「印刷時の日付時刻」 の設定箇所 >

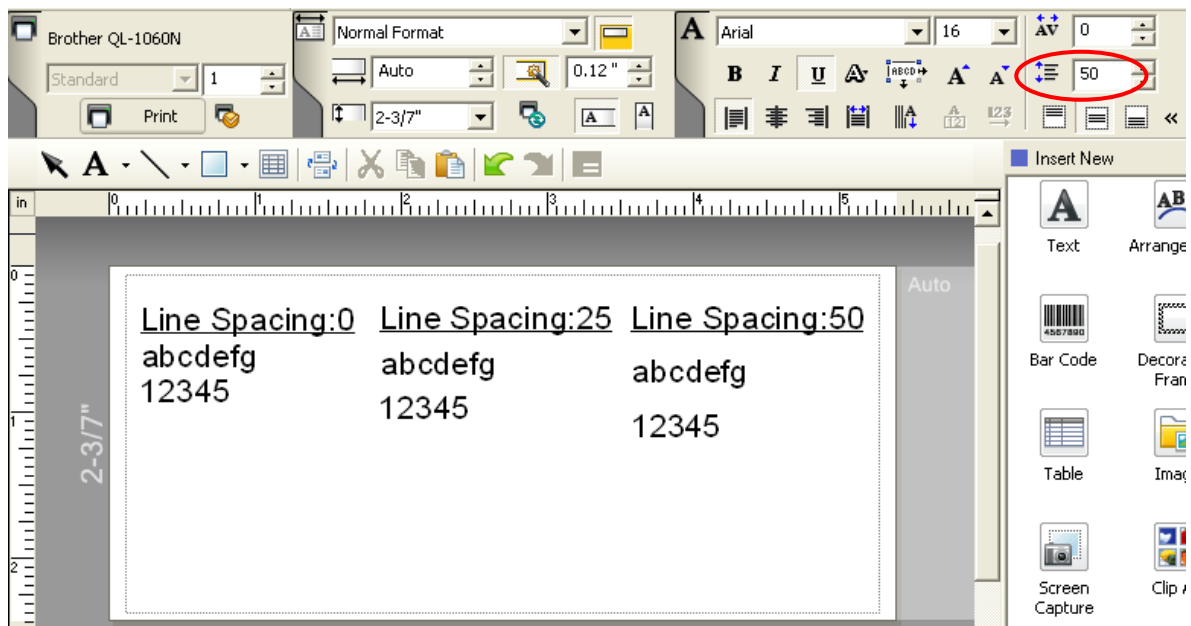


(P-touch Editor で、「日付と時刻のプロパティ」の「印刷時の日付時刻」の設定を解除するには、「日付と時刻のプロパティ」オブジェクトのプロパティを開き、「印刷時の日付時刻」チェックボックスを OFF にする。)

- P-touch Editor で設定した水平配置 (“均等揃え”、“両端揃え”) 設定は、左寄せに変換される。
- P-touch で設定した改行時の行間設定有効範囲は、0 ～ 2 5 5 ドットである。

(P-touch Editor の行間設定は、マイナスの値を使用しないこと。また、本体の行幅に上限 (約 21mm) があるため、P-touch Editor でそれより大きな行間設定を行っても本体には反映されない。)

< P-touch Editor での行間設定方法 >

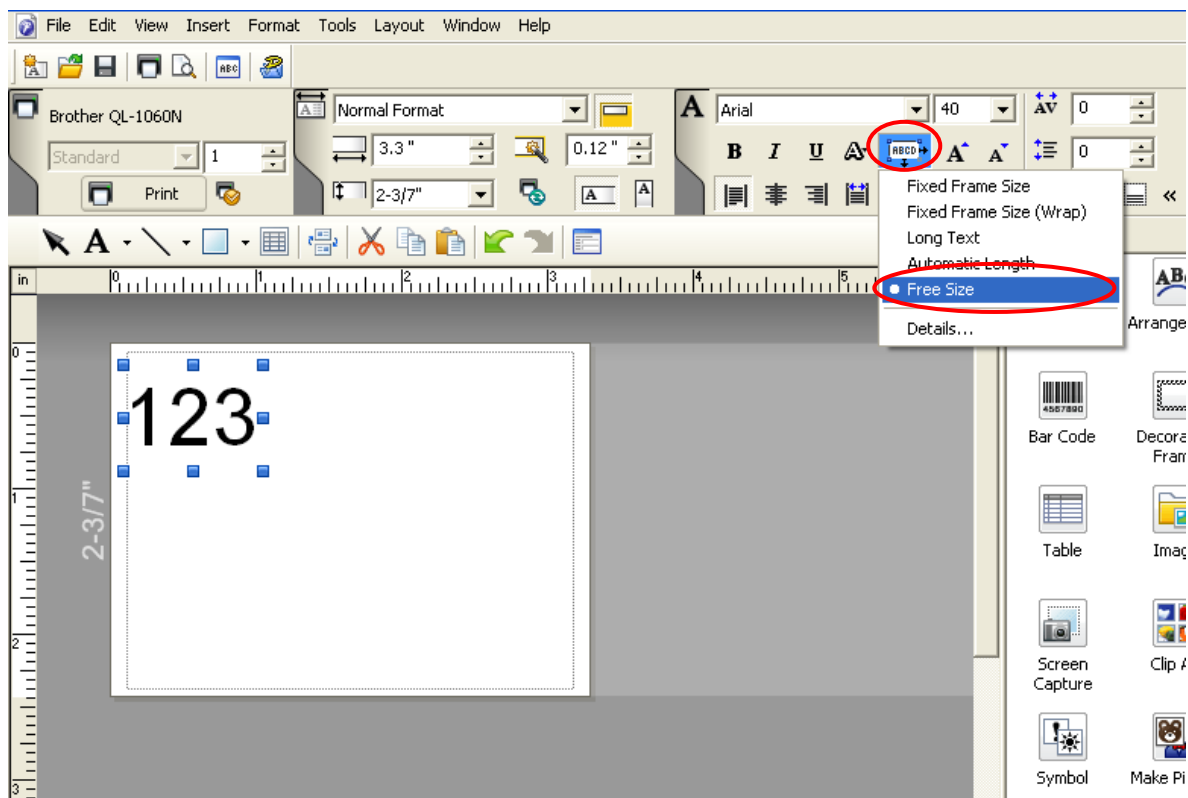


- P-touch Editor で設定した文字装飾は、オブジェクト内で全て同じ装飾になる。
- P-touch Editor で設定したテキストオプションが、「長文」の時、垂直配置は、常に上寄せの位置に配置される。
- P-touch Editor でテキストオプションの「長文」を指定し、かつ無定長ロールを使用した場合、テキストにあわせて印刷長が伸びる。
- P-touch Editor で設定したテキストオプションの「テキストを折り返す」は、オブジェクトサイズが固定で文字は縮小されます。
(「テキストを折り返す」はもともと長い文章を挿入するために追加されたモードであり、「テキストを折り返す」機能をなくしてしまうと極端に文字サイズが小さくなる可能性があるため、P-touch Editor では用紙が固定サイズまたは定長が設定されている場合は「枠サイズ固定」、用紙にオート長が設定されているときは「自動長」を推奨する。)

1. 「縮小して全体を表示」：テキストオブジェクトサイズが固定になり、テキストサイズがテキスト長さにより変更される。
2. 「はみ出した部分はクリップする」：テキストオブジェクトサイズ及びテキストサイズが固定になる。テキストが長い場合は、印刷されない。
3. 「長文」：テキストオブジェクト幅とテキストサイズは固定である。テキストが長い場合には、自動的に改行し垂直方向にのびる。
4. 「自動長」：テキストオブジェクト高さやテキストサイズは、固定である。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびる。

5. 「フリーサイズ」：テキストサイズが固定である。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびる。改行されたら垂直方向にのびる。

<テキストオプション（文字の制御）の設定方法>



赤丸で囲んだボタンをクリックすることで、選択肢がドロップダウンで表示され、その中から選択する。

P-touch Editor の設定と本体イメージの相関表

P-touch Editorの設定 テキストオプション(文字の制御)			本体イメージ				印刷 イメージ
			横		縦		
制御モード	詳細- 文字の制御	テキストを 折り返す	オブジェクトサイズ	文字サイズ	オブジェクトサイズ	文字サイズ	
枠サイズ 固定	はみ出した 部分は クリップする		固定 オブジェクトサイズの 横からはみ出た文字は 印刷しない	固定	固定 オブジェクトサイズの 縦からはみ出た文字は 印刷しない	固定	1 (下記参照)
	縮小して 全体を 表示する		固定 最小サイズの場合 横方向はみ出る	オート オブジェクト サイズに 合わせて 文字サイズを 最大サイズ に調整する	固定 最小サイズの場合 縦方向はみ出る	オート オブジェクト サイズに 合わせて 文字サイズを 最大サイズ に調整する	2 (下記参照)
	はみ出した 部分は クリップする	チェック					
	縮小して 全体を 表示する	チェック					
枠サイズ 固定 (折り返し)							
長文			固定 オブジェクトサイズの 横からはみ出た文字は 自動改行する	固定	オブジェクトサイズの 縦からはみ出た文字も 印刷する	固定	3 (下記参照)
自動長			オブジェクトサイズの 横からはみ出た文字も 印刷する	固定	固定 最小サイズの場合 縦方向はみ出る	オート オブジェクト サイズに 合わせて 文字サイズを 最大サイズ に調整する	4 (下記参照)
フリー サイズ			オブジェクトサイズの 横からはみ出た文字も 印刷する	固定	オブジェクトサイズの 縦からはみ出た文字も 印刷する	固定	5 (下記参照)

印刷イメージ



印刷までの時間を速くするテンプレートの作成方法

- 変更しないオブジェクトは下記の手順でイメージにしてください。
 - ・「Text のプロパティ」-「拡張」-「文字の編集を禁止する」をチェックするとオブジェクトがイメージになります。
 - ・「Text のプロパティ」-「拡張」がない場合は、「ツール」-「オプション」-「全般」-「その他」-「オブジェクトのプロパティで拡張ページを表示」をチェックしてください。
- 文字サイズが固定になるように、テキストオプション(文字の制御)を設定してください。

■ バーコード関係

● バーコード全体

- ・ 本体の対応していないバーコードを含むテンプレートを転送しようとする、転送時にエラーになり本体に転送できない。

本体が対応しているバーコードは、以下のとおりである。

1 次元バーコード

CODE39,I-2/5,UPC-A,UPC-E,EAN-13,EAN-8,CODE128,GS1-128(UCC/EAN-128),
RSS、CODABAR

2 次元バーコード

PDF417,QR Code,Micro QR Code,Data Matrix,MaxiCode,Micro PDF 417

- ・ バーコードオブジェクトにデータを流し込んだとき、規格外の文字があった場合は、そのバーコードオブジェクトは印刷されない。
- ・ バーコードの大きさは、P-touch Editor からの印刷結果とは異なる場合がある。
CODE128/GS1-128(UCC/EAN-128)は、大きめに印刷されやすいので、P-touch Editor でテンプレートを作成時に、余白を多めに入れることを推奨する。
- ・ P-touch Editor で作成時のテンプレートより、データの流し込みで横幅の長いバーコードが出来た場合、途中で印刷が切れることがある。
- ・ バーコードデータの直前、直後に改行を入れてはいけない。バーコードデータの一部とみなされ、改行コードも含んだバーコードが作成される、またはバーコード規格外のデータが入力されたとして、バーコード部分の印刷が空白になる。
- ・ バーコードデータの直後は、区切り記号、もしくは印刷開始文字列をいれること。

● 1 次元バーコード

- ・ 横幅が、22.5cmを超えるバーコードは、印刷されない。
- ・ 27mm以上の高さの1次元バーコードを作成しても27mmに変換される。
- ・ 規格毎の入力文字数は以下の通りである。

CODE 39 : 1～50文字（両サイドの*は含まれない）

I-2/5 : 1～64文字

EAN-8 : 7文字

EAN-13 : 12文字

UPC-A : 11文字

UPC-E : 6文字

CODABAR : 3～64文字（先頭と終了はA、B、C、Dのいずれか）

CODE 128 : 1～64文字

GS1-128 (UCC/EAN-128) : 1～64文字

RSS-14 : 3～15文字（先頭は“01”）

RSS Limited : 3～15文字（先頭は“01” 3桁目は“0” or “1”）

RSS Expanded : 数字1～64桁、英数字（※）1～40文字

※ ISO646で規定された印字可能文字

<< 数字、英文字、スペース、!、”、%、&、’、（、）、

＊、＋、,、-、.、/、:、;、<、=、>、?、_ >>

上記の範囲を超えて転送しようとする、転送時にエラーになる。データの流し込みは、下限値に満たない場合は、印刷されない。上限値を超えた場合は、上限値までのデータを有効とする。ただし、64文字を超えた場合は、印刷されない。

- ・P-touch Editor でバーの高さが極端に低いバーコードのテンプレートを作成すると、バーが印刷されないことがある。

●CODE 39

- ・データ流し込み時、データの先頭と最終の＊は読み飛ばす。

●I-2/5

- ・P-touch Editor で設定したベアラバー設定は無効である。

●QRコード

- ・P-touch Editor で設定したQRコードのバージョン設定は無効である。バージョン設定は、OFFにすること。
- ・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。
- ・QRコードバージョン設定コマンドにより設定された値が、範囲外の時、AUTOに変換される。(MODEL1:0～14、MODEL2:0～40、マイクロQR:0～4)

●PDF 417

- ・P-touch Editor で設定したPDF 417のエラー訂正レベルは、本体と一致しないため、P-touch Template での印刷時に、バーコードの大きさが変わることがある。
- ・P-touch Editor で設定したPDF 417の幅で、中は小に変換される。
- ・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。

●データマトリックス

- ・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。
- ・P-touch Editor で設定したマクロ設定は無効である。

●MaxiCode

- P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。データがオーバーした時、連結する。
- P-touch Editor で、国コードとサービスクラスを設定すると、指定文字に達しない時は前詰めになるが、本体は後ろ詰めになる。

(例) 2 を設定 → P-touch Editor : 「2 0 0」 本体 : 「0 0 2」

■イメージ関係

- ・ P-touch Editor で、イメージが重なり合ったテンプレートを転送した場合、全てのイメージデータは重ねあわされる。(P-touch Editor は後で作ったものが上に表示される。)

■データベース関係

- ・ データベース名は転送時にファイル名+シート名（エクセルの場合）で命名される。
ファイル名は15バイト（1バイト文字で15文字、2バイト文字で7文字）まで。
- ・ 最大転送データベース数は99個である。ただし転送容量がPT-9800PCN：6784KB、PT-9700PC：2048KBを越えた時点で転送できなくなる。
- ・ 置き換え検索文字のセルに改行がある場合は、改行までの文字列が置き換え検索文字となる。
- ・ 置き換え検索文字は256文字まで有効。
- ・ データベースの最大可能行数は65000行。
65000行を超えるデータベースを転送した場合は、65000行を超えた部分のデータが削除される。
- ・ データベースの最大可能列数は100列。
100列を超えるデータベースを転送した場合は、100列を超えた部分のデータは削除される。
- ・ テンプレート印刷時に接続したデータベースが無い場合や、置き換え検索した結果、該当する文字列が見つからなかった場合は、エラーになる。
- ・ テンプレート印刷時に接続した列がデータベースに無い場合、接続した列が無いオブジェクトについてはデフォルトになる。
- ・ データベース内の文字は、転送時のPCの言語により、西欧、東欧文字セットが使用される。＜海外モデル対応＞

■ナンバリング関係

- ・ 1つのテンプレート内で、有効なナンバリングオブジェクトの最大数は9個である。9個を超えたナンバリングオブジェクトはナンバリングされない。
- ・ 1つのオブジェクト内で、有効なナンバリング指定範囲数は1つである。
- ・ ナンバリング最大桁数は15桁である。15桁以上の場合は下位15桁がナンバリングされる。
- ・ 印刷後のナンバリングオブジェクトの内容はナンバリング指定範囲のみ保存する。
- ・ ナンバリングオブジェクトの文字数より流し込んだ文字数が少ない場合、正常に印刷されない場合がある。

※ナンバリングオブジェクトとはナンバリング指定されたテキストオブジェクトまたはバ

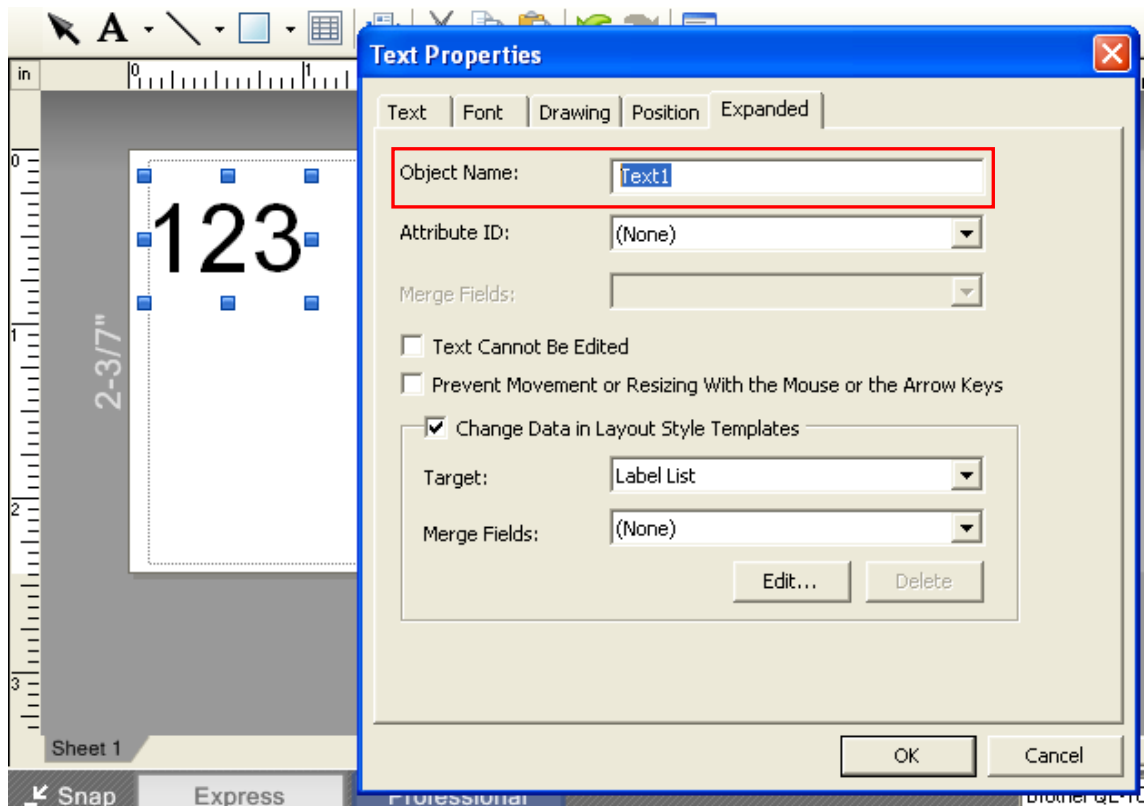
ーコードオブジェクトを意味する。

■その他

- ・最大転送テンプレート数は99個である。ただし転送容量がPT-9800PCN: 6784KB、PT-9700PC: 2048KBを越えた時点で転送できなくなる。
- ・1テンプレートの最大オブジェクト数は50個である。51個以上は、本体に転送しようとしたときにエラーとなり転送できない。
- ・1テンプレート内のトータル行数の最大値は1000行である。これを超えた場合は、印刷時にエラーになる。
- ・印刷データの改行コード(0D0A、0D、0A)は読み捨てる。ただし、区切り記号や印刷開始文字列、改行コマンドなど、特別なデータ列として設定された場合はそれらに従う。
- ・オブジェクトの順番は、オブジェクト名の下位から4ケタ分の数字のみ有効として、順番が決定される。数字がない場合は、一番最後の順番になる。同じ番号の場合は、テキスト、1次元バーコード、2次元バーコードの優先順位で番号を決定し、オブジェクトも同じ場合は、その中で最初に作ったものを先の順番にする。順番を示す数字をオブジェクト名の後ろに入れることを推奨する。

(P-touch Editor でオブジェクト名を設定するには、テキストおよびバーコード各オブジェクトのプロパティを表示し、拡張タブのオブジェクト名で名前を設定する。)

＜オブジェクト名の設定箇所＞



- ・印刷データを流し込む場合は、コマンドモードを、**P-touch Template** モードにすること。
- ・本体にテンプレートを転送すると、動的コマンドで設定した値は、全て初期化される。
- ・スプリットラベルには、対応していない。
- ・**P-touh Editor** から印刷した後、コマンドモードは、ラスターモードになる。テンプレート印刷を行うには、本体設定ツールで **P-touch Template** モードにするか、直前のモードが、本体設定ツールで **P-touch Template** モードにしていたならば、電源 **OFF/ON** すれば、**P-touch Template** モードに戻る。

注意事項

静的コマンドは、ラスタモードでしか有効にならない。

【例：テンプレート選択番号を、動的に10番に変更したい場合。】

1) ラスタモードに切り替え。

ESC i a 01h (1Bh 69h 61h 01h)

2) テンプレート番号を10番にする。

ESC i X n 2 01h 00h 0Ah
(1Bh 69h 58h 6Eh 32h 01h 00h 0Ah)

3) 動的に、P-touch Template モードにする。

ESC i a 03h (1Bh 69h 61h 03h)

P-touch Template command

Version 1.03 版

機種名 PT-9800PCN／PT-9700PC

<作成> ブラザー工業株式会社

【目次】

【目次】	2
制御コード一覧	5
P-touch Templateモードで、設定、取得可能なコマンド	5
ラスターモードで、設定、取得可能なコマンド	6
P-touch Templateとは	8
静的コマンド、動的コマンド	8
印刷が開始されない場合（よくある主な原因）	8
制御コマンド詳細	9
[^] P T 印刷開始トリガー選択の設定	9
[^] P S 印刷開始コマンド文字列設定	10
[^] P C 印刷開始受信文字数設定	11
[^] S S 区切り記号指定	12
[^] T S テンプレート選択設定	13
[^] C F フルカット設定	14
[^] C H ハーフカット設定	15
[^] C P チェーン印刷設定	16
[^] M P ミラー印刷設定	17
[^] S P 特殊テープ設定	18
[^] L S 改行時の行間設定	19
[^] C C プレフィックス文字の変更	20
[^] R C 改行コマンド文字列設定	21
[^] C N コピー印刷枚数設定	22
[^] N N ナンバリング印刷枚数設定	23
[^] I D テンプレートデータ初期化	24
[^] Q V QRコードバージョン設定	25
[^] F C FNC1置換設定	26
[^] I I 初期化	27
[^] O P 本体動作実行（フィード／カット）	28
[^] S R ステータスリクエスト	29
[^] V R バージョン情報取得	33
[^] C R オブジェクト内での改行	33
[^] O S オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）	34
[^] O N オブジェクト選択設定（オブジェクト名）	34

^ D I オブジェクト直接挿入	35
E S C i a コマンドモード設定	35
E S C i X T 2 印刷開始トリガー選択の設定	36
E S C i X P 2 印刷開始コマンド文字列設定	37
E S C i X r 2 印刷開始受信文字数設定	38
E S C i X D 2 区切り記号指定	39
E S C i X a 2 読み捨て文字列設定	40
E S C i X i 2 コマンドモード設定	41
E S C i X n 2 テンプレート選択設定	42
E S C i X f 2 プレフィックス文字の変更	43
E S C i X c 2 各種本体設定（フルカットオプション）	44
E S C i X y 2 各種本体設定（フルカットオプションのカット枚数設定）	45
E S C i X H 2 ハーフカット設定	46
E S C i X M 2 ミラー印刷設定	47
E S C i X s 2 特殊テーブル設定	48
E S C i X m 2 文字コードセット選択<海外モデル対応>	49
E S C i X j 2 国際文字設定	50
E S C i X R 2 改行コマンド文字列設定	51
E S C i X C 2 コピー印刷枚数設定	52
E S C i X N 2 ナンバリング印刷枚数設定	53
E S C i X F 2 FNC1置換設定	54
E S C i X T 1 印刷開始トリガー選択項目取得	55
E S C i X P 1 印刷開始コマンド設定文字列取得	56
E S C i X r 1 印刷開始受信文字数取得	57
E S C i X D 1 区切り記号取得	58
E S C i X a 1 読み捨て設定文字列取得	59
E S C i X i 1 コマンドモード設定値取得	60
E S C i X n 1 テンプレート選択番号取得	61
E S C i X c 1 各種本体設定（フルカットオプション）の取得	62
E S C i X y 1 各種本体設定（フルカットオプションのカット枚数設定）取得	63
E S C i X H 1 ハーフカット設定の取得	64
E S C i X M 1 ミラー印刷設定の取得	65
E S C i X s 1 特殊テーブル設定の取得	66
E S C i X m 1 文字コードセット取得<海外モデル対応>	67
E S C i X j 1 国際文字設定値取得	68
E S C i X f 1 プレフィックス文字の取得	69

<code>ESC iXR1</code> 改行コマンド設定文字列取得	70
<code>ESC iXC1</code> コピー印刷枚数設定値取得	71
<code>ESC iXN1</code> ナンバリング印刷枚数設定値取得	72
<code>ESC iXF1 FNC1</code> 置換設定取得	73
文字コード表	74
Standard character code table	76
Eastern European character code table (Windows-1250)	77
Western European character code table (Windows 1252)	78
国際文字セット表	79
付録：仕様	80

制御コード一覧

P-touch Templateモードで、設定、取得可能なコマンド

^PT	5E 50 54	動的	印刷開始トリガー選択
^PS	5E 50 53	動的	印刷開始コマンド文字列設定
^PC	5E 50 43	動的	印刷開始受信文字数設定
^SS	5E 53 53	動的	区切り記号指定
^TS	5E 54 53	動的	テンプレート選択
^CF	5E 43 46	動的	フルカット設定
^CH	5E 43 48	動的	ハーフカット設定
^CP	5E 43 50	動的	チェーン印刷設定
^MP	5E 4D 50	動的	ミラー印刷設定
^LS	5E 4C 53		改行時の行間設定
^CC	5E 43 43	動的	プレフィックス文字変更
^RC	5E 52 43	動的	改行コマンド文字列設定
^CN	5E 43 4E		コピー印刷枚数設定
^NN	5E 4E 4E		ナンバリング印刷枚数設定
^ID	5E 49 44		テンプレートデータ初期化
^QV	5E 51 56	動的	QRコードバージョン設定
^FC	5E 46 43	動的	FNC1 置換設定
^II	5E 49 49		初期化
^OP	5E 4F 50		本体動作実行（フィード／カット）
^SR	5E 53 52		ステータスリクエスト
^VR	5E 56 52		バージョン情報取得
^CR	5E 43 52		オブジェクト内での改行
^OS	5E 4F 53		オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）
^ON	5E 4F 4E		オブジェクト選択設定（オブジェクト名）
^DI	5E 44 49		オブジェクト直接挿入
ESC ia	1B 69 61	動的	コマンドモード設定

※上記コマンドは、P-touch Template モードにて、使用すること。
 ラスターモードおよび、ESC/P モードでは使用できない。（ESC ia を除く）

ラスターモードで、設定、取得可能なコマンド

ESC iXT2	1B 69 58 54 32	静的	印刷開始トリガー選択
ESC iXP2	1B 69 58 50 32	静的	印刷開始コマンド文字列設定
ESC iXr2	1B 69 58 72 32	静的	印刷開始受信文字数設定
ESC iXD2	1B 69 58 44 32	静的	区切り記号指定
ESC iXa2	1B 69 58 61 32	静的	読み捨て文字列設定
ESC iXi2	1B 69 58 69 32	静的	コマンドモード設定
ESC iXn2	1B 69 58 6E 32	静的	テンプレート選択
ESC iXf2	1B 69 58 66 32	静的	プレフィックス文字変更
ESC iXc2	1B 69 58 63 32	静的	各種本体設定（フルカットオプション ON/OFF）
ESC iXy2	1B 69 58 79 32	静的	各種本体設定（フルカットオプション 一定枚数毎のカット枚数設定）
ESC iXH2	1B 69 58 48 32	静的	ハーフカット設定
ESC iXM2	1B 69 58 4D 32	静的	ミラー印刷設定
ESC iXs2	1B 69 58 73 32	静的	特殊テープ設定
ESC iXm2	1B 69 58 6D 32	静的	文字コードセット選択 <海外モデル対応>
ESC iXj2	1B 69 58 6A 32	静的	国際文字設定
ESC iXR2	1B 69 58 52 32	静的	改行コマンド文字列設定
ESC iXC2	1B 69 58 43 32	静的	コピー印刷枚数設定
ESC iXN2	1B 69 58 4E 32	静的	ナンバリング印刷枚数設定
ESC iXF2	1B 69 58 46 32	静的	FNC1 置換設定
ESC iXT1	1B 69 58 54 31		印刷開始トリガー選択項目取得
ESC iXP1	1B 69 58 50 31		印刷開始コマンド設定文字列取得
ESC iXr1	1B 69 58 72 31		印刷開始受信文字数取得
ESC iXD1	1B 69 58 44 31		区切り記号取得
ESC iXa1	1B 69 58 61 31		読み捨て文字列取得
ESC iXi1	1B 69 58 69 31		コマンドモード取得
ESC iXn1	1B 69 58 6E 31		テンプレート選択番号取得
ESC iXc1	1B 69 58 63 31		各種本体設定（フルカットオプション ON/OFF）取得
ESC iXy1	1B 69 58 79 31		各種本体設定（フルカットオプション 一定枚数毎のカット枚数設定）取得
ESC iXH1	1B 69 58 48 31		ハーフカット設定の取得
ESC iXM1	1B 69 58 4D 31		ミラー印刷設定の取得

ESC iXs1	1B 69 58 73 31		特殊テープ設定の取得
ESC iXm1	1B 69 58 6D 31		文字コードセット設定値取得
ESC iXj1	1B 69 58 6A 31		国際文字設定値取得
ESC iXf1	1B 69 58 66 31		プレフィックス設定文字取得
ESC iXR1	1B 69 58 52 31		改行コマンド設定文字列取得
ESC iXC1	1B 69 58 43 31		コピー印刷枚数設定値取得
ESC iXN1	1B 69 58 4E 31		ナンバリング印刷枚数設定値取得
ESC iXF1	1B 69 58 46 31		FNC1 置換設定の取得

※ 上記コマンドは、ラスタモードにて、使用すること。

ESC/P モードおよび、P-touch Template モードでは使用できない。

P-touch Templateとは

P-touch Editor から、予め本体に転送してあるテンプレートに対して、計測器、秤、バーコードリーダ等のホストから、データを流し込み、印刷をするものである。

P-touch Template のコマンドは、プレフィックス文字＋2文字の文字列の構成になっている。プレフィックス文字を転送すると本体は、P-touch Template のコマンド解析を開始し、以下2文字の文字列がコマンドに該当すれば、指定の処理を行う。

静的コマンド、動的コマンド

静的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、保存され記憶される。

動的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、一時的に保存され、電源をOFFするまで有効になる。

印刷が開始されない場合（よくある主な原因）

- 1) 通信設定があっていない。
- 2) コマンドモードが、P-touch Template モードになっていない。
- 3) 印刷開始トリガーの条件を満たしていない。

印刷開始トリガーは、下記の3つの種類があるが、この選択があっていない。

- ①設定されている文字列受信時
- ②全てのオブジェクトが埋まったとき
- ③設定されている文字数受信時

上記設定があっていないときは、P-touch テンプレート設定ツールを使って設定をする。

制御コマンド詳細

^ P T 印刷開始トリガー選択の設定

【ASCII】	^	P	T	n
【10進】	94	80	84	nd
【16進】	5E	50	54	nh
【パラメータ】	$1 \leq n \leq 3$			

【解説】

- 印刷開始トリガーの種類を選択する。
 - n = 1 : 設定されている文字列受信時（デフォルト）
 - n = 2 : 全てのオブジェクトが埋まったとき
(最後のデータ後の区切り記号で印刷)
 - n = 3 : 設定されている文字数受信時
(区切り記号は、含まれない)

- このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- n が 1 ～ 3 以外の値の場合は無効になる。

【例】

- 印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

^ P T 2 (5Eh 50h 54h 32h)

^ P S 印刷開始コマンド文字列設定

【ASCII】	^	P	S	n 1	n 2	d a t a
【10進】	9 4	8 0	8 3	n d 1	n d 2	d a t a d
【16進】	5 E	5 0	5 3	n h 1	n h 2	d a t a h
【パラメータ】	$0 \leq n 1 \leq 2$ $0 \leq n 2 \leq 9$ $00h \leq d a t a h \leq FFh$					

【解説】

- 印刷開始コマンドの文字列を設定する。
 $(n 1 * 10) + n 2$: 文字列の長さ (1 ~ 20 まで設定可能)
d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は20文字 (バイト))
- 印刷開始コマンドのデフォルト文字列は “^ F F” である。
- このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- 20文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- 印刷開始コマンド文字列を “START” に変えたい場合。
設定する文字列 (d a t a) は “START” と、5文字であるため、 $n 1 = 0$ 、 $n 2 = 5$ である。コマンドは以下のようになる。
^ P S 0 5 S T A R T
(5 E h 5 0 h 5 3 h 3 0 h 3 5 h 5 3 h 5 4 h 4 1 h 5 2 h 5 4 h)

^ P C 印刷開始受信文字数設定

【ASCII】	^	P	C	n 1	n 2	n 3
【10進】	9 4	8 0	6 7	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	5 E	5 0	4 3	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	$0 \leq n 1 \leq 9$ $0 \leq n 2 \leq 9$ $0 \leq n 3 \leq 9$					

【解説】

- 印刷開始受信文字数を設定する。

$(n 1 * 1 0 0) + (n 2 * 1 0) + n 3$: 印刷開始受信文字数
(1 ~ 9 9 9 文字)

- 印刷開始受信文字数のデフォルト値は10である。
- このコマンドは、動的コマンドである。
- 全角は2バイトで1文字、半角は1バイトで1文字扱いとする。

【例】

- 印刷受信文字数を100文字に変更する場合。n 1 = 1、n 2 = 0、n 3 = 0になるため、コマンドは以下のようになる。

^ P C 1 0 0 (5 E h 5 0 h 4 3 h 3 1 h 3 0 h 3 0 h)

^ S S 区切り記号指定

【ASCII】	^	S	S	n 1	n 2	d a t a
【10進】	9 4	8 3	8 3	n d 1	n d 2	d a t a d
【16進】	5 E	5 3	5 3	n h 1	n h 2	d a t a h
【パラメータ】	$0 \leq n 1 \leq 2$					
	$0 \leq n 2 \leq 9$					
	$00h \leq d a t a h \leq FFh$					

【解説】

- ・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。
- ・区切り記号の文字列を設定する。
 $(n 1 * 10) + n 2$: 文字列の長さ (1 ~ 20)
 d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は20文字 (バイト))
- ・区切り記号のデフォルト文字列は“09h (TAB コード)”である。
- ・印刷データ内にでてくることがない文字列を設定すること。
- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- ・20文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- ・区切り記号を“,” (0x2C) に変えたい場合。
 文字列の長さは1文字であるため、 $n 1 = 0$ 、 $n 2 = 1$ となり、文字列 (d a t a h)
 は“,” (2Ch) で、コマンドは以下のようになる。
 ^ S S 0 1 , (5 E h 5 3 h 5 3 h 3 0 h 3 1 h 2 C h)

^ T S テンプレート選択設定						
------------------	--	--	--	--	--	--

【ASCII】	^	T	S	n 1	n 2	n 3
【10進】	9 4	8 4	8 3	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	5 E	5 4	5 3	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n 1 : 0 (固定)					
	$0 \leq n 2 \leq 9$					
	$0 \leq n 3 \leq 9$					

【解説】

- 本体で選択しているテンプレートを指定番号にする。
($n 2 * 10$) + $n 3$: テンプレート番号 (1 ~ 99)
- 本体選択番号のデフォルト値は、1 である。
- このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- 設定可能なテンプレート番号は、1 ~ 99 である。それ以外の数値を設定しようとした場合または本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になる。
- それまでに流し込んだデータ、選択オブジェクト、検索文字列も初期化される。

【例】

- 選択テンプレート番号を99にする場合。
n 2 = 9、n 3 = 9 になるため、コマンドは以下のようなになる。
^ T S 0 9 9 (5 E h 5 4 h 5 3 h 3 0 h 3 9 h 3 9 h)

^ C F フルカット設定

【ASCII】 ^ C F n 1 n 2
【10進】 9 4 6 7 7 0 n d 1 n d 2
【16進】 5 E 4 3 4 6 n h 1 n h 2
【パラメータ】 $0 \leq n 1 \leq 9$
 $0 \leq n 2 \leq 9$

【解説】

- フルカットのON／OFF、枚数を設定する。
 (n 1 * 1 0) + n 2 : フルカットのON／OFF、枚数設定
 (0 0 : OFF 0 1 ~ 9 9 : 枚数設定)
 (デフォルト値 : 0 1)

- このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- フルカット枚数設定は、1 ~ 9 9 枚である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。

【例】

- 2枚毎にカットしたい場合。
 オートカット枚数を2枚にするため、n 1 = 0、n 2 = 2になる。コマンドは以下のようになる。
 ^ C F 0 2
 (5 E h 4 3 h 4 6 h 3 0 h 3 2 h)

^ CH ハーフカット設定

【ASCII】 ^ C H n

【10進】 9 4 6 7 7 2 n d

【16進】 5 E 4 3 4 8 n h

【ハ°ラメター】 $0 \leq n \leq 1$

【解説】

- ・ハーフカットのON/OFFを設定する。

n : ハーフカット設定

(ON : 1 (デフォルト) OFF : 0)

- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- ・ n が 0、1 以外の値の場合は無効になる。

【例】

- ・ハーフカットしたい場合。

ハーフカットを有効にするため、 $n = 1$ になる。コマンドは以下のようになる。

$$\hat{C}H1$$

(5 E h 4 3 h 4 8 h 3 1 h)

^ C P チェーン印刷設定

【ASCII】 ^ C P n

【10進】 9 4 6 7 8 0 n d

【16進】 5 E 4 3 5 0 n h

【ハ°ラメター】 $0 \leq n \leq 1$

【解説】

- ・チェーン印刷のON/OFFを設定する。

n : チェーン印刷設定

(OFF : 0 (デフォルト) ON : 1)

- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- ・ n が 0、1 以外の値の場合は無効になる。

【例】

- ・チェーン印刷したい場合。

チェーン印刷を有効にするため、 $n = 1$ になる。コマンドは以下のようになる。

$$\hat{C} \quad P \quad 1$$

(5 E h 4 3 h 5 0 h 3 1 h)

^ M P ミラー印刷設定

【ASCII】 ^ M P n

【10進】 94 77 80 n d

【16進】 5 E 4 D 5 0 n h

【ハ°ラメター】 $0 \leq n \leq 1$

【解説】

- ・ミラー印刷のON/OFFを設定する。

n : ミラー印刷設定

(OFF : 0 (デフォルト) ON : 1)

- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- ・ n が 0、1 以外の値の場合は無効になる。

【例】

- ・ミラー印刷したい場合。

ミラー印刷を有効にするため、 $n = 1$ になる。コマンドは以下のようになる。

$$\hat{M} \quad P \quad 1$$

(5 E h 4 D h 5 0 h 3 1 h)

^ S P 特殊テープ設定

【ASCII】 ^ S P n

【10進】 9 4 8 3 8 0 n d

【16進】 5 E 5 3 5 0 n h

【ハ°ラメーター】 $0 \leq n \leq 1$

【解説】

- ・特殊テープのON/OFFを設定する。

特殊テープ設定をONにすると、カット設定とチェーン設定が無効（OFF と同等）になる。特殊テープ設定をOFFにした場合は、カット設定とチェーン設定は設定通りの動作となる。

n : 特殊テープ設定
(OFF : 0 (デフォルト) ON : 1)

- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- ・ n が 0、1 以外の値の場合は無効になる。

【例】

- ・特殊テープ設定したい場合。

特殊テープ設定を有効にするため、 $n = 1$ になる。コマンドは以下のようになる。

^ S P 1
(5 E h 5 3 h 5 0 h 3 1 h)

^ L S 改行時の行間設定

【ASCII】	^	L	S	n 1	n 2	n 3
【10進】	9 4	7 6	8 3	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	5 E	4 C	5 3	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	$0 \leq n\ 1 \leq 2$ $0 \leq n\ 2 \leq 9$ $0 \leq n\ 3 \leq 9$					

【解説】

- ・改行時の行間のドット数を設定する。
 $(n\ 1 * 100) + (n\ 2 * 10) + n\ 3$: 行間ドット数 (0 ~ 255)
- ・改行時の行間ドット数のデフォルト値は、P-touch Editor でテンプレートを作成したときに決められるドット数である。

【備考】

- ・行間のドット数は、0 ~ 255 ドットである。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。

1 ドット = 1 / 360 インチ

1 ドット = 0.071 mm

【例】

- ・行間を10ドットにする場合。
^ L S 0 1 0 (5 E h 4 C h 5 3 h 3 0 h 3 1 h 3 0 h)

^ C C プレフィックス文字の変更

【ASCII】 ^ C C n
【10進】 9 4 6 7 6 7 n d
【16進】 5 E 4 3 4 3 n h
【パラメーター】 00h ≤ n h ≤ FFh

【解説】

- ・プレフィックス文字コードを変更する。
n : 文字コード
- ・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“^”である。
- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【例】

- ・プレフィックス文字を、“^”から“_”に変更したい場合は、下記のようにコマンドを送る。

^ C C 5Fh (5 E h 4 3 h 4 3 h 5 F h)
 (“_”)

- ・ただしこれ以降、電源をON／OFFしないとプレフィックス文字は“_”に変更されたままのため、たとえば初期化コマンドを使用するときは、^ I Iではなく、_ I Iになる。

^ R C 改行コマンド文字列設定

【ASCII】	^	R	C	n 1	n 2	d a t a
【10進】	9 4	8 2	6 7	n d 1	n d 2	d a t a d
【16進】	5 E	5 2	4 3	n h 1	n h 2	d a t a h
【パラメータ】	$0 \leq n 1 \leq 2$					
	$0 \leq n 2 \leq 9$					
	$00h \leq d a t a h \leq FFh$					

【解説】

- 改行コマンドの文字列を設定する。

(n 1 * 10) + n 2 : 文字列の長さ (1 ~ 20 まで設定可能)

d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は20文字 (バイト))

- 改行コマンドのデフォルト文字列は “^ C R” である。
- このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- 20文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- 改行コマンド文字列を “0Dh 0Ah” に変えたい場合。

設定する文字列 (d a t a) は、2文字であるため、n 1 = 0、n 2 = 2
である。コマンドは以下のようになる。

^ R C 0 2 0 D h 0 A h
(5 E h 5 2 h 4 3 h 3 0 h 3 2 h 0 D h 0 A h)

^ C N コピー印刷枚数設定						
-----------------	--	--	--	--	--	--

【ASCII】	^	C	N	n 1	n 2	n 3
【10進】	9 4	6 7	7 8	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	5 E	4 3	4 E	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	$0 \leq n 1 \leq 9$ $0 \leq n 2 \leq 9$ $0 \leq n 3 \leq 9$					

【解説】

- ・コピー印刷枚数を設定する。

$(n 1 * 1 0 0) + (n 2 * 1 0) + n 3$: コピー印刷枚数 (バイト)
 (1 ~ 9 9 9)

- ・コピー印刷枚数のデフォルト値は1である。

【備考】

- ・印刷が終了すると、このコマンドで設定した枚数は、本体に設定されている枚数（静的値）に戻る。

【例】

- ・コピー印刷枚数を100枚に変更する場合。n 1 = 1、n 2 = 0、n 3 = 0になるため、コマンドは以下のようになる。

^ C N 1 0 0 (5 E h 4 3 h 4 E h 3 1 h 3 0 h 3 0 h)

^ N N ナンバリング印刷枚数設定

【ASCII】	^	N	N	n 1	n 2	n 3
【10進】	9 4	7 8	7 8	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	5 E	4 E	4 E	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	$0 \leq n\ 1 \leq 9$ $0 \leq n\ 2 \leq 9$ $0 \leq n\ 3 \leq 9$					

【解説】

- ・ナンバリング印刷枚数を設定する。

$(n\ 1 * 1\ 0\ 0) + (n\ 2 * 1\ 0) + n\ 3$: ナンバリング印刷枚数 (バイト)
 (1 ~ 9 9 9)

- ・ナンバリング印刷枚数のデフォルト値は1である。

【備考】

- ・印刷が終了すると、このコマンドで設定した枚数は、本体に設定されている枚数（静的値）に戻る。

【例】

- ・ナンバリング印刷枚数を100枚に変更する場合。n 1 = 1、n 2 = 0、n 3 = 0になるため、コマンドは以下のようになる。

^ N N 1 0 0 (5 E h 4 E h 4 E h 3 1 h 3 0 h 3 0 h)

^ I D テンプレートデータ初期化			
--------------------	--	--	--

【A S C I I】	^	I	D
【1 0 進】	9 4	7 3	6 8
【1 6 進】	5 E	4 9	4 4
【パ ラ メ ー ター】	なし		
【解説】			

選択しているテンプレートのデータをテンプレート転送時の状態にする

^ Q V Q Rコードバージョン設定					
---------------------	--	--	--	--	--

【ASCII】	^	Q	V	n 1	n 2
【10進】	9 4	8 1	8 6	n d 1	n d 2
【16進】	5 E	5 1	5 6	n h 1	n h 2
【パラメータ】	$0 \leq n\ 1 \leq 9$ $0 \leq n\ 2 \leq 9$				

【解説】

- QRコードバージョンを設定する。
 $(n\ 1 * 10) + n\ 2$: バージョン値 (0 ~ 40)
- QRコードバージョンのデフォルト値は0である。
- 設定可能値 (0 ~ 40) 以外を設定しようとした時は、コマンドが無効になる。
- このコマンドは、動的コマンドである。
- 印刷領域をオーバーする場合は白紙を印刷する。

【例】

- バージョンを10に変更する場合。n 1 = 1、n 2 = 0になるため、コマンドは以下のようになる。

^ Q V 1 0 (5 E h 5 1 h 5 6 h 3 1 h 3 0 h)

^ F C F N C 1 置換設定

【ASCII】	^	F	C	n
【10進】	9 4	7 0	6 7	n d
【16進】	5 E	4 6	4 3	n h
【パラメータ】	$0 \leq n \leq 1$			

【解説】

- ・バーコード規格GS1-128(UCC/EAN-128)などに含まれるGSコードを、FNC1コードに置き換える機能のON/OFFを設定する。

n : FNC1置換設定
(ON: 1 OFF: 0 (デフォルト))

- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

- ・nが0、1以外の値の場合は無効になる。

【例】

- ・FNC1置換を無効にしたい場合。

FNC1置換を無効にするため、n=0になる。コマンドは以下のようになる。

^ F C 0
(5 E h 4 6 h 4 3 h 3 0 h)

^ I I 初期化

【A S C I I】	^	I	I
【1 0 進】	9 4	7 3	7 3
【1 6 進】	5 E	4 9	4 9
【パラメーター】	なし		

【解説】

・動的設定値を全て本体設定値に戻す。

- 1) 印刷開始トリガー選択の設定
- 2) 印刷開始コマンド文字列設定
- 3) 印刷開始受信文字数設定
- 4) 区切り記号設定
- 5) テンプレート選択設定
- 6) フルカット設定
- 7) ハーフカット設定
- 8) チェーン印刷設定
- 9) ミラー印刷設定
- 1 0) 特殊テープ設定
- 1 1) プレフィックス文字の変更
- 1 2) 改行コマンド文字列設定
- 1 3) コピー印刷枚数設定
- 1 4) Q R コードバージョン設定
- 1 5) F N C 1 置換設定

【備考】

・それまでに流し込んだデータ、選択オブジェクト、検索文字列も初期化される。

^ O P 本体動作実行（フィード／カット）

【ASCII】 ^ O P n

【10進】 9 4 7 9 8 0 n d

【16進】 5 E 4 F 5 0 n h

【パラメータ】 n = 4

【解説】

- ・ 本体のフィード&カット動作を実行させる。

 n = 4 : フィード&カット動作する。

【備考】

- ・ n が 4 以外の値が設定された場合は、無効となる。

【例】

- ・ 本体をフィード&カット動作させたいとき。

 ^ O P 4 (5 E h 4 F h 5 0 h 3 4 h)

^SR ステータスリクエスト

【ASCII】 ^ S R

【10進】 9 4 8 3 8 2

【16進】 5 E 5 3 5 2

【パラメーター】 なし

【解説】

- ・プリンターステータスが返信される。

プリンターステータスは32バイトで構成される。

序数	オフセット	サイズ	名称	値/参照
1	0	1	ヘッドマーク	80 Hex 固定
2	1	1	サイズ	20 Hex 固定
3	2	1	「ブラザー」コード	'B' Char (42 Hex) 固定
4	3	1	シリーズコード	'0' Char (30 Hex) 固定
5	4	1	機種コード	'a' Char (61 Hex) ※1
				'b' Char (62 Hex) ※2
6	5	1	国別コード	'0' Char (30 Hex) 固定
7	6	1	本体情報	00 Hex 固定
8	7	1	予約	00 Hex 固定
9	8	1	エラー情報1	下記参照
10	9	1	エラー情報2	下記参照
11	10	1	メディア幅	下記参照
12	11	1	メディア種類	下記参照
13	12	1	色数	00 Hex 固定
14	13	1	内蔵フォント情報	00 Hex 固定
15	14	1	内蔵日本語フォント情報	00 Hex 固定
16	15	1	モード	00 Hex 固定
17	16	1	濃度	00 Hex 固定
18	17	1	メディア長	
19	18	1	ステータス種類	下記参照
20	19	1	フェーズ種類	下記参照
21	20	1	フェーズ番号上位バイト	00 Hex 固定
22	21	1	フェーズ番号下位バイト	00 Hex 固定
23	22	1	通知番号	未使用
24	23	1	拡張部バイト数	00 Hex 固定

25	24	8	予約	00 Hex 固定
----	----	---	----	-----------

※1 : PT-9800PCN の場合

※2 : PT-9700PC の場合

エラー情報 1

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	メディア無しエラー
Bit 1	0x02	メディア終了エラー
Bit 2	0x04	カッタージャムエラー
Bit 3	0x08	未使用
Bit 4	0x10	未使用
Bit 5	0x20	電源オフ
Bit 6	0x40	未使用
Bit 7	0x80	未使用

エラー情報 2

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	メディア交換エラー
Bit 1	0x02	未使用
Bit 2	0x04	通信エラー
Bit 3	0x08	未使用
Bit 4	0x10	カバーオープンエラー
Bit 5	0x20	ヘッド高温エラー
Bit 6	0x40	未使用
Bit 7	0x80	システムエラー

メディア幅

メディア幅	値	備考
テープなし	00 Hex	
6 mmテープ	06 Hex	
9 mmテープ	09 Hex	
1 2 mmテープ	0C Hex	
1 8 mmテープ	12 Hex	
2 4 mmテープ	18 Hex	
3 6 mmテープ	24 Hex	
3. 5 mmテープ	04 Hex	

メディア種類

メディア種類	値	備考
テープなし	00 Hex	
レタリング	02 Hex	
ラミネート	01 Hex	
KP (感熱)	03 Hex	
レセプタ	03 Hex	
HG	09 Hex	
非対応テープ	FF Hex	

ステータス種類

ステータス種類	値
ステータスリクエストへの返信	00 Hex
印字終了	01 Hex
エラー発生	02 Hex
未使用	03 Hex
未使用	04 Hex
通知	05 Hex
フェーズチェンジ	06 Hex
未使用	07 Hex ~ EF Hex
拡張データ送信	F0 Hex
未使用	F1 Hex ~ FF Hex

フェーズ種類

フェーズ種類	値
受信可能	00 Hex
印刷	01 Hex

^ V R バージョン情報取得

【A S C I I】 ^ V R
【1 0 進】 9 4 8 6 8 2
【1 6 進】 5 E 5 6 5 2
【パラメーター】 なし
【解説】

- ・本体のバージョン情報を16文字の文字列で取得する。

^ C R オブジェクト内での改行

【A S C I I】 ^ C R
【1 0 進】 9 4 6 7 8 2
【1 6 進】 5 E 4 3 5 2
【パラメーター】 なし
【解説】

- ・テキストオブジェクトで次の行に改行する。
- ・改行コマンド文字列を変更しても有効である。

【例】

- ・3行印刷させたい場合。

1 ^ C R 2 ^ C R 3 ^ F F
(3 1 h 5 E h 4 3 h 5 2 h 3 2 h 5 E h 4 3 h 5 2 h 3 3 h
5 E h 4 6 h 4 6 h)

印刷結果

1
2
3

^ O S オブジェクト選択設定 (オブジェクト番号)

【A S C I I】 ^ O S n 1 n 2
 【10進】 9 4 7 9 8 3 n d 1 n d 2
 【16進】 5 E 4 F 5 3 n h 1 n h 2
 【パラメータ】 0 ≤ n 1 ≤ 5
 0 ≤ n 2 ≤ 9

【解説】

- ・オブジェクト番号から対象オブジェクトを選択する。
 (n 1 * 10) + n 2 : オブジェクト番号 (1 ~ 50)

【備考】

- ・設定可能なオブジェクト番号は、1 ~ 50 である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。
- ・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用する。

【例】

- ・33オブジェクト目を選択する場合。
 ^ O S 3 3 (5 E h 4 F h 5 3 h 3 3 h 3 3 h)

^ O N オブジェクト選択設定 (オブジェクト名)

【A S C I I】 ^ O N d a t a 0 0
 【10進】 9 4 7 9 7 8 d a t a d 0 0
 【16進】 5 E 4 F 4 E d a t a h 0 0
 【パラメータ】 なし

【解説】

- ・オブジェクト名から対象オブジェクトを選択する。
 d a t a : 文字列 (オブジェクト名)

【備考】

- ・設定可能な文字列の最大長さは、20文字である。それ以上の長さを指定した時は、コマンドが無効になる。また、文字列がない時も、コマンドが無効になる。
- ・文字列の後ろには、00hをつけること。文字列の終了を意味する。
- ・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用する。

【例】

- ・オブジェクト名が“TEXT1”のオブジェクトを選択する場合。
 ^ O N T E X T 1 0 0 h
 (5 E h 4 F h 4 E h 5 4 h 4 5 h 5 8 h 5 4 h 3 1 h 0 0 h)

^DI オブジェクト直接挿入

【ASCII】	^	D	I	n 1	n 2	d a t a
【10進】	9 4	6 8	7 3	n d 1	n d 2	d a t a d
【16進】	5 E	4 4	4 9	n h 1	n h 2	d a t a h
【ハミラーター】	00h ≤ n h 1 ≤ FFh					
	00h ≤ n h 2 ≤ FEh					

【解説】

- ・選択されているテンプレートの選択されているオブジェクトに指定文字数分、文字列を挿入する。(途中で印刷コマンド、区切り記号がきても、指定文字数内ならデータとして扱う)

(nh2*256)+nh1 : 指定文字数 (バイト)

d a t a : 文字列

【例】

- ・ Aが印刷開始文字列に設定されていて、印刷開始トリガーを印刷開始文字列に設定している場合、手軽にAを印刷したい場合に、下記のコマンドで印刷を実行する。

$$\begin{array}{cccccccccccc} \wedge & D & I & 03h & 00h & 1 & A & 2 & A & & & \\ (5Eh & 44h & 49h & 03h & 00h & 31h & 41h & 32h & 41h) \end{array}$$

印刷結果

1 A 2

ESC i a コマンドモード設定

【ASCII】	ESC	i	a	n
【10進】	27	105	97	nd
【16進】	1B	69	61	nh
【パラメータ】	nh=00h	01h	03h	30h 31h 33h

【解説】

- ・モードの切り替えをする。

nh=00hまたは30h : ESC/Pモード (デフォルト)

n h=01h または 31h : ラスターモード

n h = 03 h または 33 h : P-touch Template モード

- ・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとする、ラスターモードになる。

ESC i X T 2	印刷開始トリガー選択の設定						
--------------------	----------------------	--	--	--	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	T	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	8 4	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	5 4	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 = 01 h (固定) n h 2 = 00 h (固定) 00 h ≤ n h 3 ≤ 02 h							

【解説】

- ・印刷開始トリガーの種類を選択する。

n h 3 = 00 h : 設定されている文字列受信時 (デフォルト)

n h 3 = 01 h : 全てのオブジェクトが埋まったとき
(最後のデータ後の区切り記号で印刷)

n h 3 = 02 h : 設定されている文字数受信時
(区切り記号は、含まれない)

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- ・n h 3 が 00 h ~ 02 h 以外の値の場合は無効になる。

【例】

- ・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

```
ESC i X T 2 0 1 h 0 0 h 0 1 h
(1 B h 6 9 h 5 8 h 5 4 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 0 1 h)
```

ESC	i	X	P	2	印刷開始コマンド文字列設定			
-----	---	---	---	---	---------------	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	P	2	n 1	n 2	d a t a
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	8 0	5 0	n d 1	n d 2	d a t a d
【16進】	1 B	6 9	5 8	5 0	3 2	n h 1	n h 2	d a t a h
【パラメータ】	$01h \leq n h 1 \leq 14h$ $n h 2 : 00h$ (固定) $00h \leq d a t a h \leq FFh$							

【解説】

- ・印刷開始コマンドの文字列を設定する。

n h 1 + (n h 2 * 2 5 6) : 文字列の長さ (1 ~ 2 0 まで設定可能)

d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は2 0 文字 (バイト))

- ・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は “^ F F” である。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- ・2 0 文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- ・印刷開始コマンド文字列を “START” に変えたい場合。

設定する文字列 (d a t a) は “START” と、5 文字であるため、n h 1 = 0 5 h、
n h 2 = 0 0 h である。コマンドは以下のようになる。

```
ESC i X P 2 0 5 h 0 0 h S T A R T
(1 B h 6 9 h 5 8 h 5 0 h 3 2 h 0 5 h 0 0 h 5 3 h 5 4 h
4 1 h 5 2 h 5 4 h)
```

ESC	i	X	r	2	印刷開始受信文字数設定				
-----	---	---	---	---	-------------	--	--	--	--

【ASCII】ESC i X r 2 n 1 n 2 n 3 n 4
 【10進】 2 7 1 0 5 8 8 1 1 4 5 0 n d 1 n d 2 n d 3 n d 4
 【16進】 1 B 6 9 5 8 7 2 3 2 n h 1 n h 2 n h 3 n h 4
 【パラメータ】 n h 1 : 02h (固定)
 n h 2 : 00h (固定)
 00h ≤ n h 3 ≤ FFh
 00h ≤ n h 4 ≤ 03h

【解説】

- ・印刷開始受信文字数を設定する。
 n h 3 + (n h 4 * 256) : 印刷開始受信文字数 (バイト) (1 ~ 999)
- ・印刷開始受信文字数のデフォルト値は10である。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・印刷受信文字数を100文字に変更する場合。n h 3 = 64h、n h 4 = 00hになるため、コマンドは以下のようになる。

ESC i X r 2 0 2 h 0 0 h 6 4 h 0 0 h
 (1 B h 6 9 h 5 8 h 7 2 h 3 2 h 0 2 h 0 0 h 6 4 h 0 0 h)

ESC i X D 2	区切り記号指定
--------------------	----------------

【ASCII】	ESC i X D 2 n 1 n 2 d a t a
【10進】	2 7 1 0 5 8 8 6 8 5 0 n d 1 n d 2 d a t a d
【16進】	1 B 6 9 5 8 4 4 3 2 n h 1 n h 2 d a t a h
【パラメータ】	01h ≤ n h 1 ≤ 14h n h 2 : 00h (固定) 00h ≤ d a t a h ≤ FFh

【解説】

- ・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。
- ・区切り記号の文字列を設定する。
n h 1 + (n h 2 * 2 5 6) : 文字列の長さ (1 ~ 2 0)
d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は2 0 文字 (バイト))
- ・区切り記号のデフォルト文字列は“09h (TAB コード)”である。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- ・2 0 文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- ・区切り記号を、(2Ch) に変えたい場合。
文字列の長さは1 文字で、n h 1 = 01h、n h 2 = 00h となり、文字列 (d a t a h) は “,” (2Ch) で、コマンドは以下ようになる。
ESC i X D 2 0 1 h 0 0 h 2 C h
(1 B h 6 9 h 5 8 h 4 4 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 2 C h)

ESC i X a 2	読み捨て文字列設定
-------------	-----------

【ASCII】ESC i X a 2 n 1 n 2 n 3 d a t a
 【10進】 2 7 1 0 5 8 8 9 7 5 0 n d 1 n d 2 n d 3 d a t a d
 【16進】 1 B 6 9 5 8 6 1 3 2 n h 1 n h 2 n h 3 d a t a h
 【パラメータ】 01h ≤ n h 1 ≤ 15h
 n h 2 : 00h (固定)
 n h 3 : 01h (固定)
 00h ≤ d a t a h ≤ FFh

【解説】

- 読み捨て文字列を設定する。

n h 1 + (n h 2 * 2 5 6) : 文字列の長さ (0 ~ 2 0) + 1

d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は2 0 文字 (バイト))

- このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- 2 0 文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- 読み捨て文字列を、“A B C D” にしたい場合。

文字列の長さは4 文字で、n h 1 = 05h、n h 2 = 00h となり、コマンドは以下のようになる。

ESC i X a 2 0 5 h 0 0 h 0 1 h A B C D
 (1 B h 6 9 h 5 8 h 6 1 h 3 2 h 0 5 h 0 0 h 0 1 h 4 1 h
 4 2 h 4 3 h 4 4 h)

ESC	i	X	i	2	コマンドモード設定			
-----	---	---	---	---	-----------	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	i	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 5	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 9	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01h (固定)							
	n h 2 : 00h (固定)							
	n h 3 : 00h 01h 03h							

【解説】

- ・モードの切り替えをする。
 - n h 3 = 00h : ESC / Pモード (デフォルト)
 - n h 3 = 01h : ラスターモード
 - n h 3 = 03h : P-touch Template モード
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとすると、無効になる。

ESC i X n 2 テンプレート選択設定

【ASCII】	ESC	i	X	n	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 1 0	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 E	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01h (固定)							
	n h 2 : 00h (固定)							
	01h ≤ n h 3 ≤ 63h							

【解説】

- ・本体で選択しているテンプレートを指定番号にする。

n 3 : テンプレート番号 (1～99)

- ・本体選択番号のデフォルト値は、1である。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- ・設定可能なテンプレート番号は、1～99である。それ以外の数値を設定しようとした場合または、本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になる。

【例】

- ・選択テンプレート番号を99にする場合。

n h 3 = 63h になるため、コマンドは以下のようになる。

ESC i X n 2 0 1 h 0 0 h 6 3 h

(1 B h 6 9 h 5 8 h 6 E h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 6 3 h)

ESC i X f 2 プレフィックス文字の変更

【ASCII】	ESC	i	X	f	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 2	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 6	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメーター】	n h 1 : 01h (固定)							
	n h 2 : 00h (固定)							
	00h ≤ n h 3 ≤ FFh							

【解説】

- ・プレフィックス文字コードを変更する。
n 3 : 文字コード
- ・プレフィックス文字のデフォルト文字列は “^” である。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・プレフィックス文字を、“_” に変更したい場合。

```
ESC i X f 2 0 1 h 0 0 h 5 F h (“_”)
(1 B h 6 9 h 5 8 h 6 6 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 5 F h)
```

ESC i X c 2	各種本体設定（フルカットオプション）							
--------------------	---------------------------	--	--	--	--	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	c	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	9 9	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 3	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01h（固定）							
	n h 2 : 00h（固定）							
	n h 3 : 00h 01h 08h 09h							

【解説】

- ・各種カット項目を設定する。

n h 3 = 00h : フルカットOFF、チェーン印刷ON

n h 3 = 01h : フルカットON、チェーン印刷ON

n h 3 = 08h : フルカットOFF、チェーン印刷OFF

n h 3 = 09h : フルカットON、チェーン印刷OFF

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・フルカットをON、チェーン印刷をONに設定する場合。

ESC i X c 2 0 1 h 0 0 h 0 1 h

(1 B h 6 9 h 5 8 h 6 3 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 0 1 h)

ESC i X y 2 各種本体設定（フルカットオプションのカット枚数設定）									
【ASCII】	ESC	i	X	y	2	n 1	n 2	n 3	
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 2 1	5 0	n d 1	n d 2	n d 3	
【16進】	1 B	6 9	5 8	7 9	3 2	n h 1	n h 2	n h 3	
【パラメータ】	n h 1 : 01h（固定）								
	n h 2 : 00h（固定）								
	01h ≤ n h 3 ≤ 63h								

【解説】

- 一定枚数毎のフルカット枚数の設定する。（フルカット設定がONの場合、この設定値毎にカットを行う）

n h 3 : 一定枚数毎のフルカット枚数（01h～63h）

- このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- フルカット枚数設定は、1～99枚である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。

【例】

- 5枚毎にフルカットしたい場合。（ただしフルカット設定がONである必要がある）

ESC i X y 2 0 1 h 0 0 h 0 5 h

(1 B h 6 9 h 5 8 h 7 9 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 0 5 h)

ESC i X H 2	ハーフカット設定
-------------	----------

【ASCII】	ESC	i	X	H	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	27	105	88	72	50	nd 1	nd 2	nd 3
【16進】	1B	69	58	48	32	nh 1	nh 2	nh 3
【パラメータ】	nh 1 : 01h (固定)							
	nh 2 : 00h (固定)							
	nh 3 : 00h 01h							

【解説】

- ・ハーフカットのON／OFFを設定する。

nh 3 = 00h : ハーフカットOFF

nh 3 = 01h : ハーフカットON

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・ハーフカットしたい場合。

ESC i X H 2 01h 00h 01h
(1Bh 69h 58h 48h 32h 01h 00h 01h)

ESC i XM2 ミラー印刷設定

【ASCII】	ESC	i	X	M	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	27	105	88	77	50	nd 1	nd 2	nd 3
【16進】	1B	69	58	4D	32	nh 1	nh 2	nh 3
【パラメータ】	nh 1 : 01h (固定)							
	nh 2 : 00h (固定)							
	nh 3 : 00h 01h							

【解説】

- ・ミラー印刷のON／OFFを設定する。

nh 3 = 00h : ミラー印刷OFF

nh 3 = 01h : ミラー印刷ON

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・ミラー印刷したい場合。

ESC i X M 2 01h 00h 01h
(1Bh 69h 58h 4Dh 32h 01h 00h 01h)

ESC i X s 2 特殊テープ設定

【ASCII】	ESC	i	X	s	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 1 5	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	7 3	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01h (固定)							
	n h 2 : 00h (固定)							
	n h 3 : 00h 01h							

【解説】

- ・特殊テープのON／OFFを設定する。

特殊テープ設定をONにすると、カット設定とチェーン設定が無効（OFF と同等）になる。特殊テープ設定をOFFにした場合は、カット設定とチェーン設定は設定通りの動作となる。

n h 3 = 00h : 特殊テープ設定OFF

n h 3 = 01h : 特殊テープ設定ON

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・特殊テープ設定したい場合。

ESC i X s 2 0 1 h 0 0 h 0 1 h
(1 B h 6 9 h 5 8 h 7 3 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 0 1 h)

ESC i X m 2 文字コードセット選択	<海外モデル対応>
------------------------	-----------

【ASCII】	ESC	i	X	m	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 9	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 D	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01 h (固定)							
	n h 2 : 00 h (固定)							
	n h 3 : 00 h 01 h 02 h							

【解説】

- ・文字コードセットを選択する。(文字コードセットの詳細に関しては、文字コード表参照)
n h 3 = 00 h : ブラザー標準
n h 3 = 01 h : Windows1250 東欧
n h 3 = 02 h : Windows1252 西欧
- ・n h 3 に 00 h ~ 02 h 以外を設定した場合は、無効になる。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・文字コードセットを、ブラザー標準にする場合。

```
ESC i X m 2 0 1 h 0 0 h 0 0 h
(1 B h 6 9 h 5 8 h 6 D h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 0 0 h)
```

ESC i X j 2 国際文字設定

【ASCII】	ESC	i	X	j	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 6	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 A	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01 h (固定)							
	n h 2 : 00 h (固定)							
	00 h ≤ n h 3 ≤ 0D h、40 h							

【解説】

- ・各国別の文字セットを選択し、n h 3の値によりコード表の一部文字コードが切り替わる。

n h 3 = 00 h	: U S A
n h 3 = 01 h	: フランス
n h 3 = 02 h	: ドイツ
n h 3 = 03 h	: イギリス
n h 3 = 04 h	: デンマーク
n h 3 = 05 h	: スウェーデン
n h 3 = 06 h	: イタリア
n h 3 = 07 h	: スペイン
n h 3 = 08 h	: 日本
n h 3 = 09 h	: ノルウェー
n h 3 = 0A h	: デンマーク II
n h 3 = 0B h	: スペイン II
n h 3 = 0C h	: ラテンアメリカ
n h 3 = 0D h	: 韓国
n h 3 = 40 h	: リーガル

- ・切り替わるコードは、以下の12コードである。

23 h 24 h 40 h 5B h 5C h 5D h 5E h 60 h 7B h 7C h 7D h 7E h

(切り替わる文字に関しては、国際文字セット表参照のこと)

- ・初期設定は、

<海外モデル> n h 3 = 00 h (U S A)

<日本モデル> n h 3 = 08 h (日本)

<中国モデル> n h 3 = 00 h (U S A)

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・国際文字設定を日本に変える場合。

ESC	i	X	j	2	0 1 h	0 0 h	0 8 h
(1 B h	6 9 h	5 8 h	6 A h	3 2 h	0 1 h	0 0 h	0 8 h)

ESC	i	X	R	2	改行コマンド文字列設定			
-----	---	---	---	---	-------------	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	R	2	n 1	n 2	d a t a
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	8 2	5 0	n d 1	n d 2	d a t a d
【16進】	1 B	6 9	5 8	5 2	3 2	n h 1	n h 2	d a t a h
【パラメータ】	$01h \leq n h 1 \leq 14h$ $n h 2 : 00h$ (固定) $00h \leq d a t a h \leq FFh$							

【解説】

- 改行コマンドの文字列を設定する。
 $n h 1 + (n h 2 * 256)$: 文字列の長さ (1 ~ 20 まで設定可能)
d a t a : 文字列 (設定可能最大文字数は 20 文字 (バイト))
- 改行コマンドのデフォルト文字列は “^ C R” である。
- このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

- 20 文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

- 改行コマンド文字列を “0 D h 0 A h” に変えたい場合。
設定する文字列 (d a t a) は、2 文字であるため、 $n h 1 = 02h$ 、 $n h 2 = 00h$ である。コマンドは以下のようになる。
ESC i X R 2 0 2 h 0 0 h 0 D h 0 A h
(1 B h 6 9 h 5 8 h 5 2 h 3 2 h 0 2 h 0 0 h 0 D h 0 A h)

ESC	i	X	C	2	コピー印刷枚数設定				
-----	---	---	---	---	-----------	--	--	--	--

【ASCII】ESC i X C 2 n 1 n 2 n 3 n 4
 【10進】 2 7 1 0 5 8 8 6 7 5 0 n d 1 n d 2 n d 3 n d 4
 【16進】 1 B 6 9 5 8 4 3 3 2 n h 1 n h 2 n h 3 n h 4
 【パラメータ】 n h 1 : 02h (固定)
 n h 2 : 00h (固定)
 00h ≤ n h 3 ≤ FFh
 00h ≤ n h 4 ≤ 03h

【解説】

- コピー印刷枚数を設定する。
 n h 3 + (n h 4 * 2 5 6) : コピー印刷枚数 (バイト) (1 ~ 9 9 9)
- コピー印刷枚数のデフォルト値は 1 である。
- このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- コピー印刷枚数を 1 0 0 枚に変更する場合。n h 3 = 64h、n h 4 = 00h になるため、
 コマンドは以下ようになる。

ESC i X C 2 0 2 h 0 0 h 6 4 h 0 0 h
 (1 B h 6 9 h 5 8 h 4 3 h 3 2 h 0 2 h 0 0 h 6 4 h 0 0 h)

ESC	i	X	N	2	ナンバリング印刷枚数設定				
-----	---	---	---	---	--------------	--	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	N	2	n 1	n 2	n 3	n 4
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	7 8	5 0	n d 1	n d 2	n d 3	n d 4
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 E	3 2	n h 1	n h 2	n h 3	n h 4
【パラメータ】	n h 1 : 02h (固定) n h 2 : 00h (固定) 00h ≤ n h 3 ≤ FFh 00h ≤ n h 4 ≤ 03h								

【解説】

- ・ナンバリング印刷枚数を設定する。
n h 3 + (n h 4 * 2 5 6) : ナンバリング印刷枚数 (バイト) (1 ~ 9 9 9)
- ・ナンバリング印刷枚数のデフォルト値は1である。
- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・ナンバリング印刷枚数を100枚に変更する場合。n h 3 = 64h、n h 4 = 00h になるため、コマンドは以下のようになる。

```
ESC i X N 2 0 2 h 0 0 h 6 4 h 0 0 h
(1 B h 6 9 h 5 8 h 4 E h 3 2 h 0 2 h 0 0 h 6 4 h 0 0 h)
```

ESC	i	X	F	2	FNC1 置換設定			
-----	---	---	---	---	-----------	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	F	2	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	7 0	5 0	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 6	3 2	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01h (固定)							
	n h 2 : 00h (固定)							
	n h 3 : 00h 01h							

【解説】

- ・バーコード規格GS1-128(UCC/EAN-128)などに含まれるGSコードを、FNC1コードに置き換える機能のON/OFFを設定する。

n h 3 = 00h : FNC1 置換設定OFF

n h 3 = 01h : FNC1 置換設定ON

- ・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

- ・FNC1置換を無効にしたい場合。

ESC i X F 2 0 1 h 0 0 h 0 0 h
 (1 B h 6 9 h 5 8 h 4 6 h 3 2 h 0 1 h 0 0 h 0 0 h)

ESC i X T 1	印刷開始トリガー選択項目取得
--------------------	-----------------------

【ASCII】	ESC	i	X	T	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	8 4	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	5 4	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1	=	00 h	(固定)			
	n h 2	=	00 h	(固定)			

【解説】

- ・印刷開始トリガーを3バイトのデータで返信する。

[1] : 01 h (固定)

[2] : 00 h (固定)

[3] : 設定値

00 h : 設定されている文字列受信時

01 h : 全てのオブジェクトが埋まったとき

02 h : 設定されている文字数受信時

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・本体に設定されている、印刷開始トリガーを取得する。設定値が、設定されている文字列受信時の場合。

ESC i X T 1 0 0 h 0 0 h

(1 B h 6 9 h 5 8 h 5 4 h 3 1 h 0 0 h 0 0 h)

本体からは、0 1 h 0 0 h 0 0 hが返信される。

ESC	i	X	P	1	印刷開始コマンド設定文字列取得		
-----	---	---	---	---	-----------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	P	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	8 0	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	5 0	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・印刷開始コマンドの設定文字列を取得する。
- ・本体から、3～22バイトのデータが返信される。(文字列の長さにより変化する)
- [1、2]: n h 1 n h 2 (文字数) n h 1 + (n h 2 * 2 5 6)
- [3以降]: 文字列
- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・印刷開始コマンド文字列を“START”に設定している場合。

ESC i X P 1 0 0 h 0 0 h (1 B h 6 9 h 5 8 h 5 0 h
 3 1 h 0 0 h 0 0 h) のコマンドを送信すると、本体からは、0 5 h 0 0 h
 S T A R T (0 5 h 0 0 h 5 3 h 5 4 h 4 1 h 5 2 h 5 4 h)
 と返信される。

ESC	i	X	r	1	印刷開始受信文字数取得		
-----	---	---	---	---	-------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	r	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 1 4	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	7 2	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・印刷開始受信設定文字数を取得する。
- ・本体からは、4バイトのデータが返信される。

[1] : 02h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3、4] : n h 3 n h 4 設定値

$n h 3 + (n h 4 * 256)$: 印刷開始受信文字数

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・印刷受信文字数が500文字の場合。

ESC i X r 1 00h 00h (1 Bh 6 9 h 5 8 h 7 2 h 3 1 h 00h 00h) のコマンドを本体に送信すると、02h 00h F4h 01h が返信される。 $244(F4h) + (1(01h) * 256) = 500$ 文字である。

ESC	i	X	D	1	区切り記号取得	
-----	---	---	---	---	---------	--

【ASCII】	ESC	i	X	D	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	6 8	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 4	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・区切り記号の設定文字列を取得する。
- ・本体から、3～22バイトのデータが返信される。(文字列の長さにより変化する)
 [1、2]: n h 1 n h 2 (文字数) n h 1 + (n h 2 * 2 5 6)
 [3以降]: 文字列

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・区切り記号を、(2Ch) に設定している場合。

ESC i X D 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 44h 31h 00h 00h) のコマンドを本体に送信する。

本体からは、01h 00h , (01h 00h 2Ch) が返信される。

ESC	i	X	a	1	読み捨て設定文字列取得			
-----	---	---	---	---	-------------	--	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	a	1	n 1	n 2	n 3
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	9 7	4 9	n d 1	n d 2	n d 3
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 1	3 1	n h 1	n h 2	n h 3
【パラメータ】	n h 1 : 01h (固定)							
	n h 2 : 00h (固定)							
	n h 3 : 01h (固定)							

【解説】

- ・読み捨て設定文字列を取得する。
- ・本体から、2～22バイトのデータが返信される。(文字列の長さにより変化する)
 [1、2]: n h 1 n h 2 (文字数) n h 1 + (n h 2 * 256)
 [3以降]: 文字列
- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・読み捨て文字列が、“ABCD”の場合。

本体に以下のコマンドを送信する。

ESC i X a 1 01h 00h 01h

(1 Bh 6 9 h 5 8 h 6 1 h 3 1 h 0 1 h 0 0 h 0 1 h)

本体からは、以下のように返信される。

04h 00h A B C D (04h 00h 41h 42h 43h 44h)

ESC	i	X	i	1	コマンドモード設定値取得		
-----	---	---	---	---	--------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	i	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 5	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 9	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・コマンドモードの設定値を取得する。
- ・本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

00h : ESC/Pモード

01h : ラスターモード

03h : P-touch Template モード

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

設定値をラスターモードにしてある場合。

ESC i X i 1 00h 00h

(1 Bh 6 9 h 5 8 h 6 9 h 3 1 h 00h 00h)

本体からは、以下のように返信される。

01h 00h 01h

ESC i X n 1 テンプレート選択番号取得

【ASCII】	ESC	i	X	n	1	n 1	n 2
【10進】	27	105	88	110	49	nd 1	nd 2
【16進】	1B	69	58	6E	31	nh 1	nh 2
【パラメータ】	nh 1 : 00h (固定)						
	nh 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・本体で選択しているテンプレート番号を取得する。
- ・本体からは、3バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・選択テンプレート番号が99の場合。

ESC i X n 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 6Eh 31h
00h 00h) と本体に送ると、本体からは以下のように返信される。
01h 00h 63h

ESC i X c 1	各種本体設定（フルカットオプション）の取得
-------------	-----------------------

【ASCII】	ESC i X c 1 n 1 n 2
【10進】	2 7 1 0 5 8 8 9 9 4 9 n d 1 n d 2
【16進】	1 B 6 9 5 8 6 3 3 1 n h 1 n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h（固定） n h 2 : 00h（固定）

【解説】

- ・各種カット設定項目を取得する。
- ・本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h（固定）

[2] : 00h（固定）

[3] : 設定値

- 00h : フルカットOFF、チェーン印刷ON
- 01h : フルカットON、チェーン印刷ON
- 08h : フルカットOFF、チェーン印刷OFF
- 09h : フルカットON、チェーン印刷OFF

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・フルカットON、チェーン印刷ONに設定されている場合。

ESC i X c 1 0 0 h 0 0 h (1 B h 6 9 h 5 8 h 6 3 h 3 1 h
0 0 h 0 0 h) のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。
0 1 h 0 0 h 0 1 h

ESC	i	X	y	1	各種本体設定（フルカットオプションのカット枚数設定）取得		
-----	---	---	---	---	------------------------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	y	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 2 1	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	7 9	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h（固定）						
	n h 2 : 00h（固定）						

【解説】

- ・一定枚数毎のフルカット枚数の設定値を取得する。
- ・本体からは、3バイトのデータが返信される。

[1] : 01h（固定）

[2] : 00h（固定）

[3] : 設定値

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・フルカット枚数設定を5枚毎に設定している場合。

ESC i X y 1 0 0 h 0 0 h (1 B h 6 9 h 5 8 h 7 9 h 3 1 h
0 0 h 0 0 h) を本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。
0 1 h 0 0 h 0 5 h

ESC	i	X	H	1	ハーフカット設定の取得		
-----	---	---	---	---	-------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	H	1	n 1	n 2
【10進】	27	105	88	72	49	nd 1	nd 2
【16進】	1B	69	58	48	31	nh 1	nh 2
【パラメータ】	nh 1 : 00h (固定)						
	nh 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・ハーフカットの設定を取得する。
- ・本体からは、3バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

00h : ハーフカットOFF

01h : ハーフカットON

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・ハーフカットONに設定されている場合。

ESC i X H 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 48h 31h 00h 00h) のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。

01h 00h 01h

ESC i X M 1 ミラー印刷設定の取得

【ASCII】	ESC	i	X	M	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	7 7	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 D	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・ミラー印刷の設定を取得する。
- ・本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

00h : ミラー印刷OFF

01h : ミラー印刷ON

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・ミラー印刷 ON に設定されている場合。

ESC i X M 1 0 0 h 0 0 h (1 B h 6 9 h 5 8 h 4 D h 3 1 h
0 0 h 0 0 h) のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。
0 1 h 0 0 h 0 1 h

ESC i X s 1	特殊テープ設定の取得
--------------------	-------------------

【ASCII】	ESC	i	X	s	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 1 5	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	7 3	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・特殊テープの設定を取得する。
- ・本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

00h : 特殊テープ設定OFF

01h : 特殊テープ設定ON

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・特殊テープ設定 ON に設定されている場合。

ESC i X s 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 73h 31h
00h 00h) のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。
01h 00h 01h

【ASCII】	ESC	i	X	m	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 9	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 D	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00 h (固定)						
	n h 2 : 00 h (固定)						

【解説】

- ・設定している文字コードセットを取得する。(文字コードセットの詳細に関しては、文字コード表参照)
- ・本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01 h (固定)

[2] : 00 h (固定)

[3] : 設定値

00 h : ブラザー標準

01 h : Windows1250 東欧

02 h : Windows1252 西欧

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・文字コードセットを、ブラザー標準に設定している場合。

ESC i X m 1 00 h 00 h (1 B h 6 9 h 5 8 h 6 D h 3 1 h
 00 h 00 h) と本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。
 01 h 00 h 00 h

ESC i X j 1 国際文字設定値取得

【ASCII】	ESC	i	X	j	1	n 1	n 2
【10進】	27	105	88	106	49	nd 1	nd 2
【16進】	1B	69	58	6A	31	nh 1	nh 2
【パラメータ】	nh 1 : 00h (固定)						
	nh 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・ 国際文字設定値を取得する。
- ・ 本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

00h	: USA
01h	: フランス
02h	: ドイツ
03h	: イギリス
04h	: デンマーク
05h	: スウェーデン
06h	: イタリア
07h	: スペイン
08h	: 日本
09h	: ノルウェー
0Ah	: デンマーク II
0Bh	: スペイン II
0Ch	: ラテンアメリカ
0Dh	: 韓国
40h	: リーガル

- ・ 取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・ 国際文字設定を<日本>にしている場合。

ESC i X j 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 6Ah 31h 00h 00h) のコマンドを本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

01h 00h 08h

ESC i X f 1 プレフィックス文字の取得

【ASCII】	ESC	i	X	f	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	1 0 2	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	6 6	3 1	n h 1	n h 2
【パラメーター】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・プレフィックス文字コードを取得する。
- ・本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定文字

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・プレフィックス文字を、“_” に設定している場合。

ESC i X f 1 0 0 h 0 0 h (1 B h 6 9 h 5 8 h 6 6 h 3 1 h
 0 0 h 0 0 h) を本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

0 1 h 0 0 h 5 F h
 (“_”)

ESC	i	X	R	1	改行コマンド設定文字列取得		
-----	---	---	---	---	---------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	R	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	8 2	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	5 2	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・改行コマンドの設定文字列を取得する。
- ・本体から、2～22バイトのデータが返信される。(文字列の長さにより変化する)
- [1、2]: n h 1 n h 2 (文字数) n h 1 + (n h 2 * 256)
- [3以降]: 文字列
- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・改行コマンド文字列を“0Dh 0Ah”に設定している場合。

ESC i X R 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 52h 31h 00h 00h) のコマンドを送信すると、本体からは、02h 00h 0Dh 0Ah と返信される。

ESC	i	X	C	1	コピー印刷枚数設定値取得		
-----	---	---	---	---	--------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	C	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	6 7	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 3	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・コピー印刷設定枚数を取得する。
- ・本体からは、4バイトのデータが返信される。

[1] : 02h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3、4] : n h 3 n h 4 設定値

n h 3 + (n h 4 * 256) : コピー印刷枚数

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・コピー印刷設定枚数が500枚の場合。

ESC i X C 1 00h 00h (1 Bh 6 9 h 5 8 h 4 3 h 3 1 h 00h 00h) のコマンドを本体に送信すると、02h 00h F4h 01h が返信される。 $244(F4h) + (1(01h) * 256) = 500$ 文字である。

ESC	i	X	N	1	ナンバリング印刷枚数設定値取得		
-----	---	---	---	---	-----------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	N	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	7 8	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 E	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・ナンバリング印刷設定枚数を取得する。
- ・本体からは、4バイトのデータが返信される。

[1] : 02h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3、4] : n h 3 n h 4 設定値

n h 3 + (n h 4 * 256) : ナンバリング印刷枚数

- ・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・ナンバリング印刷設定枚数が500枚の場合。

ESC i X N 1 00h 00h (1 Bh 6 9 h 5 8 h 4 E h 3 1 h 00h 00h) のコマンドを本体に送信すると、02h 00h F4h 01h が返信される。 $244(F4h) + (1(01h) * 256) = 500$ 文字である。

ESC	i	X	F	1	FNC 1 置換設定取得		
-----	---	---	---	---	--------------	--	--

【ASCII】	ESC	i	X	F	1	n 1	n 2
【10進】	2 7	1 0 5	8 8	7 0	4 9	n d 1	n d 2
【16進】	1 B	6 9	5 8	4 6	3 1	n h 1	n h 2
【パラメータ】	n h 1 : 00h (固定)						
	n h 2 : 00h (固定)						

【解説】

- ・ FNC 1 置換設定を取得する。
- ・ 本体からは、3 バイトのデータが返信される。

[1] : 01h (固定)

[2] : 00h (固定)

[3] : 設定値

00h : FNC 1 置換設定OFF

01h : FNC 1 置換設定ON

- ・ 取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

- ・ FNC 1 置換設定 OFF に設定されている場合。

ESC i X F 1 00h 00h (1Bh 69h 58h 46h 31h
00h 00h) のコマンドを本体に送ると、本体からは以下のように返信される。
01h 00h 00h

文字コード表

日本 文字コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	p	-		SP	ー	タ	ミ		
1			!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2			”	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3			#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4			\$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5			%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6			&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7			’	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8			(	8	H	X	h	x			ィ	ク	ネ	リ		
9			)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A			*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B			+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C			,	<	L	¥	l				ヤ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ン		
E			.	>	N	^	n	~			ヨ	セ	ホ	ゝ		
F			/	?	O	_	o	DEL			ッ	ソ	マ	。°		

“■” は、国際文字セットを切り替えると文字コードが切り替わる。

中国 文字コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	p								
1			!	1	A	Q	a	q								
2			”	2	B	R	b	r								
3			#	3	C	S	c	s								
4			\$	4	D	T	d	t								
5			%	5	E	U	e	u								
6			&	6	F	V	f	v								
7			,	7	G	W	g	w								
8			(	8	H	X	h	x								
9			)	9	I	Y	i	y								
A			*	:	J	Z	j	z								
B			+	;	K	[	k	{								
C			,	<	L	¥	l									
D			-	=	M	]	m	}								
E			.	>	N	^	n	~								
F			/	?	O	_	o	DEL								

“■” は、国際文字セットを切り替えると文字コードが切り替わる。

漢字コード（2 バイト文字）は、GB2312 に準拠。（ESC/P コマンドリファレンスの漢字コード一覧を参照）

Standard character code table

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P		p	Ç	É	á		Ł		α	
1			!	1	A	Q	a	q	ü	æ	í		⊥		ß	±
2			”	2	B	R	b	r	é	Æ	ó		⌈			
3			#	3	C	S	c	s	â	ô	ú		⌋			¾
4			\$	4	D	T	d	t	ä	ö	ñ	⌋	—			
5			%	5	E	U	e	u	à	ò	Ñ		+			§
6			&	6	F	V	f	v	å	û	ª				μ	÷
7			,	7	G	W	g	w	ç	ù	º					
8			(	8	H	X	h	x	ê	ÿ	¿	©	ℒ			°
9			)	9	I	Y	i	y	ë	Ö	®	¶	⌌	⌋		.
A			*	:	J	Z	j	z	è	Ü	€		⌌	⌌	Ω	
B			+	;	K	[	k	{	ï	¢	½	¶	⌌	✓	δ	
C			,	<	L	\	l		î	£	¼	¶	⌌	☑		³
D			-	=	M	]	m	}	ì	¥	¡	TEL	=		ø	²
E			.	>	N	^	n	~	Ä	Pts	«	FAX	⌌			
F			/	?	O	_	o	DEL	Å	f	»	⌌		□		

“■” indicates that a space is printed.

“■” indicates that the character will change if the international character set is switched.

Eastern European character code table (Windows-1250)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P		p	€	t [˘]		°	Ř	Đ	ř	ď
1			!	1	À	Q	a	q	À	‘	˘	±	Á	Ň	á	ń
2			"	2	B	R	b	r	,	’	˘	˘	Â	Ň	â	ň
3			#	3	C	S	c	s	L	“	Ł	ł	Ă	Ó	ă	ó
4			\$	4	D	T	d	t	„	”	¤	’	Ä	Ô	ä	ô
5			%	5	E	U	e	u	...	•	Ą	μ	Ł	Ő	í	ő
6			&	6	F	V	f	v	†	–		¶	Ć	Ö	ć	ö
7			’	7	G	W	g	w	‡	—	§	·	Ç	×	ç	÷
8			(	8	H	X	h	x	Ĳ		˘	,	Č	Ř	č	ř
9			)	9	I	Y	i	y	‰	™	©	ą	É	Ů	é	ů
A			*	:	J	Z	j	z	Š	š	Ş	ş	Ę	Ú	ę	ú
B			+	;	K	[	k	{	<	>	«	»	Ë	Ů	ë	ů
C			,	<	L	\	l		Ś	ś	¬	Ł	Ě	Ü	ě	ü
D			–	=	M	]	m	}	Ť	ť	–	”	Í	Ý	í	ý
E			.	>	N	^	n	~	Ž	ž	®	ı	Î	Ț	î	ț
F			/	?	O	_	o	DEL	Ž	ž	Ž	ž	Ď	ß	ď	·

“■” indicates that a space is printed.

“■” indicates that the character will change if the international character set is switched.

Western European character code table (Windows 1252)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P		p	€			°	À	Ð	à	ð
1			!	1	À	Q	a	q	~	'	ı	±	Á	Ñ	á	ñ
2			”	2	B	R	b	r	,	'	¢	²	Â	Ò	â	ò
3			#	3	C	S	c	s	f	“	£	³	Ã	Ó	ã	ó
4			\$	4	D	T	d	t	„	”	¤	'	Ä	Ô	ä	ô
5			%	5	E	U	e	u	...	•	¥	μ	Å	Õ	å	õ
6			&	6	F	V	f	v	†	—		¶	Æ	Ö	æ	ö
7			'	7	G	W	g	w	‡	—	§	·	Ç	×	ç	÷
8			(	8	H	X	h	x	^	~	¨	,	È	Ø	è	ø
9			)	9	I	Y	i	y	‰	™	©	¹	É	Ù	é	ù
A			*	:	J	Z	j	z	Š	š	ª	º	Ê	Ú	ê	ú
B			+	;	K	[	k	{	<	>	«	»	Ë	Û	ë	û
C			,	<	L	\	l		Œ	œ	¬	¼	Ì	Ü	ì	ü
D			-	=	M	]	m	}			-	½	Í	Ý	í	ý
E			.	>	N	^	n	~	Ž	ž	®	¾	Î	Þ	î	þ
F			/	?	O	_	o	DEL		ÿ	—	¿	Ï	ß	ï	ÿ

“■” indicates that a space is printed.

“■” indicates that the character will change if the international character set is switched.

国際文字セット表

Compatible characters in each language when the international character set is switched

n		23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
0	United States	#	\$	@	[	\	]	^	`	{		}	~
1	France	#	\$	à	°	ç	§	^	`	é	ù	è	¨
2	Germany	#	\$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
3	Britain	£	\$	@	[	\	]	^	`	{		}	~
4	Denmark I	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
5	Sweden	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
6	Italy	#	\$	@	°	\	é	^	ù	à	ò	è	ì
7	Spain I	Pt	\$	@	¡	Ñ	¿	^	`	¨	ñ	}	~
8	Japan	#	\$	@	[	¥	]	^	`	{		}	~
9	Norway	#	¤	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
10	Denmark II	#	\$	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
11	Spain II	#	\$	á	¡	Ñ	¿	é	`	í	ñ	ó	ú
12	Latin America	#	\$	á	¡	Ñ	¿	é	ü	í	ñ	ó	ú
13	Korea	#	\$	@	[	₩	]	^	`	{		}	~
64	Legal	#	\$	§	°	´	"	¶	`	©	®	†	™

付録：仕様

P-touch Template 仕様

印 字	印刷モード		Raster (PTCBP モード) ESC/P モード P-touch Template モード
	最大印字長		1 meter
	解像度 (dpi)		360dpi × 360dpi
	テ キ ス ト	フォント	<海外> ビットマップフォント：ヘルシンキ、ブリュッセル、レターゴシック ボールド アウトラインフォント：ヘルシンキ、ブリュッセル、レターゴシック <日本> ビットマップフォント：ゴシック、ヘルシンキ アウトラインフォント：ゴシック、ヘルシンキ <中国> ビットマップフォント：ゴシック、ヘルシンキ、黒体
		サイズ（ドット）	<海外> ビットマップフォント：24 x 24, 32 x 32（ドット） アウトラインフォント：35 - 380 ドット（21 サイズ） <日本> ビットマップフォント：24 x 24, 48 x 48,（ドット） アウトラインフォント：35 - 380 ドット（21 サイズ） <中国> ビットマップフォント：24 x 24, 32 x 32, 48 x 48, 64 x 64, 96 x 96, 128 x 128, 144 x 144, 192 x 192, 240 x 240, 256 x 256, 288 x 288, 320 x 320, 336 x 336, 384 x 384（ドット）
		文字スタイル	なし、ボールド、イタリック、アウトライン、シャドウ、シャドウ +アウトライン
		水平位置	左寄せ、中寄せ、右寄せ
		回転	垂直、水平
	バーコード	規格 *1	CODE39, ITF(I-2/5), EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E, CODABAR, CODE128, GS1-128(UCC/EAN-128), QR コード (model 1, model 2, micro QR), PDF417 (Standard, Truncate), データマトリックス (ECC200 Square, ECC200 Rectangular), MaxiCode, Micro PDF 417, RSS-14, RSS-Limited, RSS Expanded
		幅	大、中、小、極小

転送	RS	ボ ー レ ー ト (bps)	115.2k、57.6k、38.4k、31.25k、28.8k、19.2k、14.4k、9600、4800、 2400、1200、600
		ビジィ	DTR、Xon/Xoff
		ビット長	8、7
		パリティ	NONE、ODD、EVEN
		ストップビット	1bit

*1 BarStar Pro エンコードライブラリ(DataMatrix, MaxiCode, PDF417, RSS)の著作権は、アイニックス株式会社にあります。

QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

QRコード生成プログラム Copyright(C) 2008 DENSO WAVE INCORPORATED